



尾張名所圖會

後編

四



加藤所藏

藏

加藤文庫

加藤所藏

尾張名所圖會後編卷之四

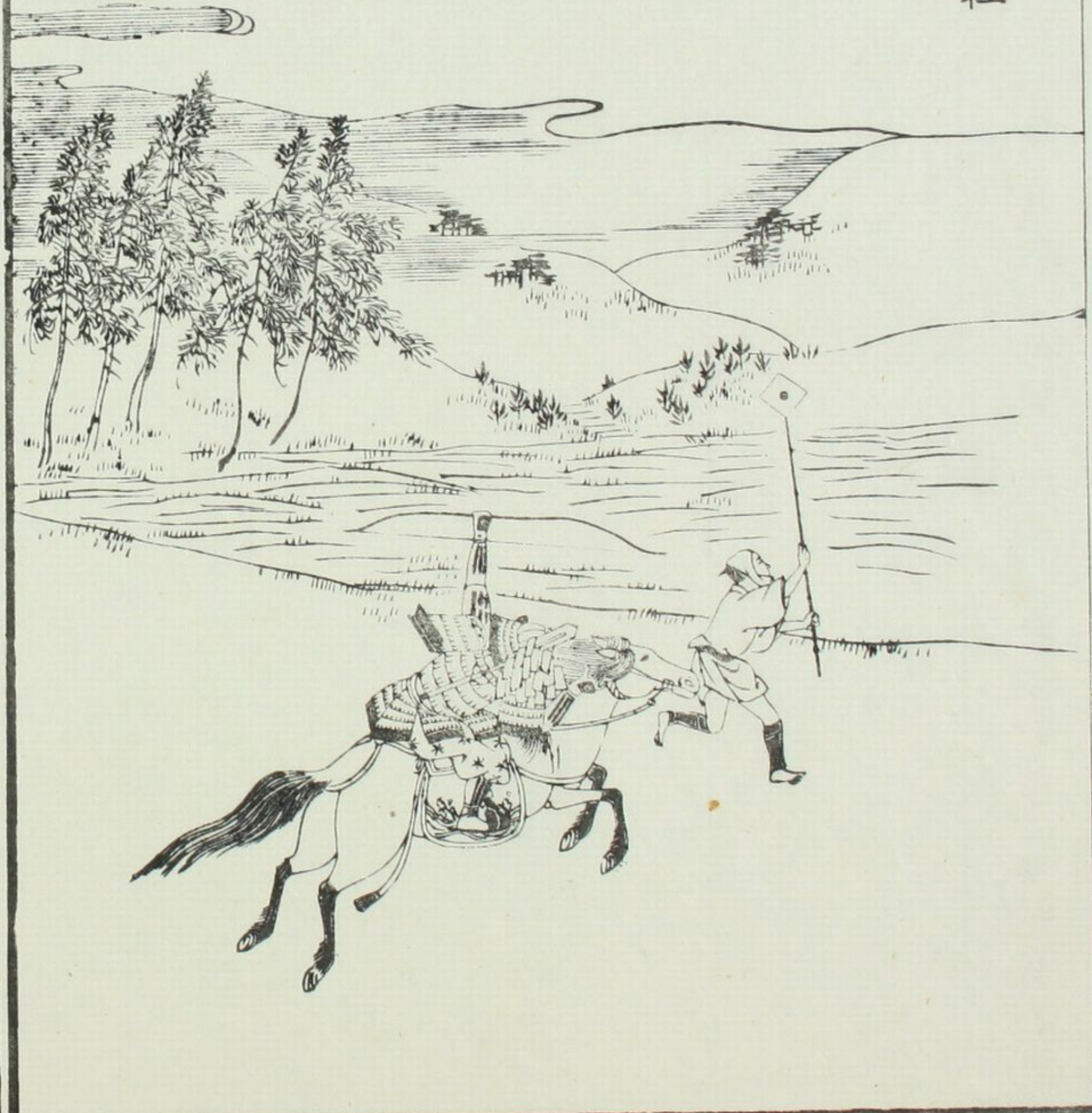
目錄 春日井郡下

伊弉波刀神社	福嚴寺	曾呂利塚	盛禪和尚道德
勝川旗竿	勝川渡	勝川驛	大光寺
小野道風出生地	大永寺	石山寺	高牟神社
山田次郎重忠	中將菊	羊神社	觀音寺
杉村	下方左述傳	矢田川	守山里
長母寺	小幡里	長慶寺	大森寺
法輪寺	波川神社	良福寺	洞光院
機織池	毛受庄助	川島神社	篠木柏井
龍泉寺	同裏山眺望圖	密藏院	圓福寺
神屋村	弥勒ヶ嶽	馬啼石	内津驛
名産煎茶	内々神社	内津山	玉野川



伊多波刀神社

まつく  
権系茂りて  
ひろまこれ  
八まこのま始

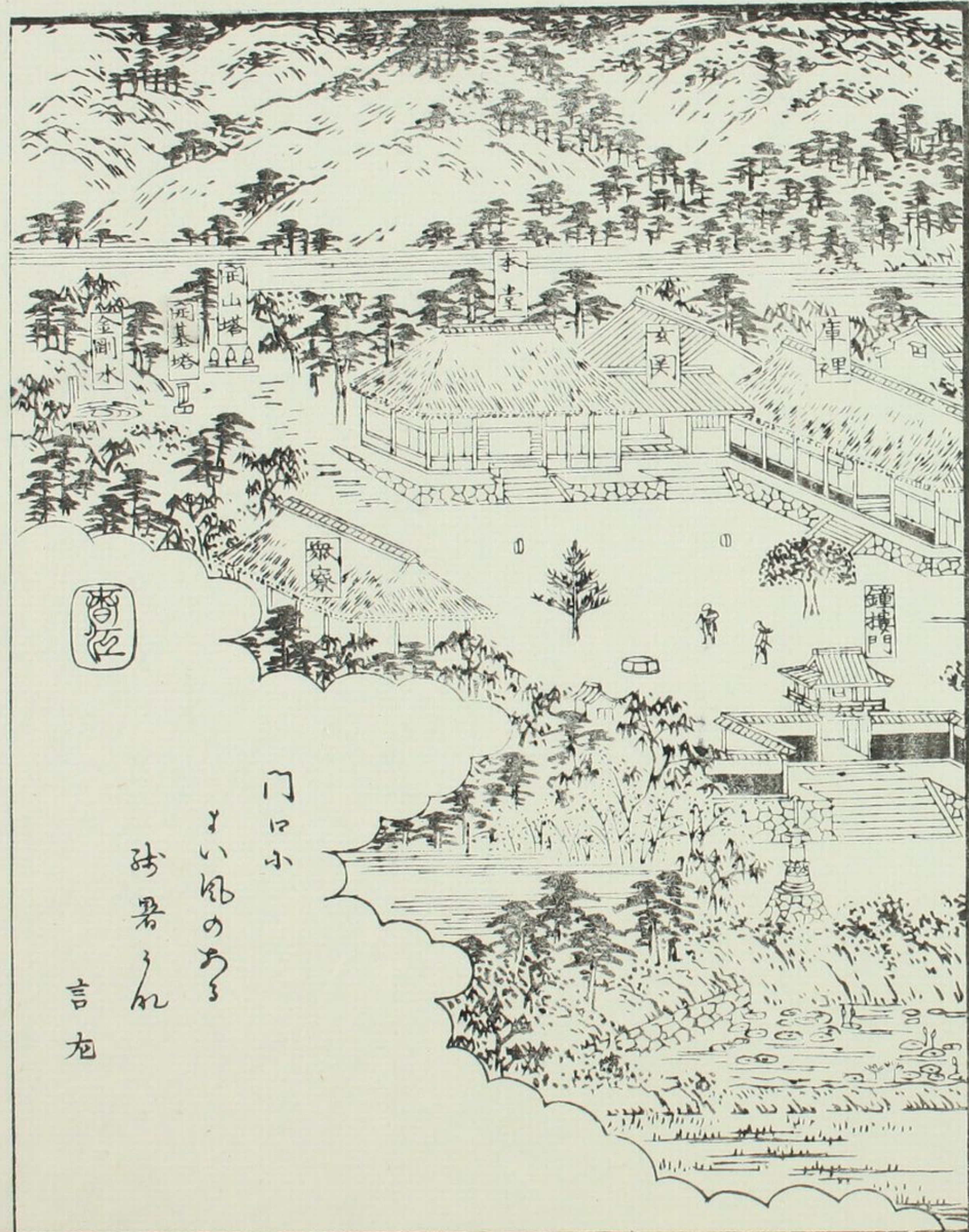


うら  
うら  
猛彦

やうまの  
つみの母  
いそあむ  
古き  
子ありの  
神あそひ  
史雄



妻  
史雄



山口小  
 よい風のあす  
 砂暑くれ  
 言九

福巖寺



大叢村裏大叢山山孕仙陀松  
 擁閑苔蹊斗折楓林晚老僧初  
 共倦鴉還

小出聚齋

梅はひ山色に

かゝるそとより

苔に法あり

しらのの庭

嘉基

靈岳終りに臨み盛禪をばて我附法の子子性印尾浪小なり汝行て  
師とて遺言ありたれば則宝積寺に來り朝夕泰禪次文明二  
年庚寅三月廿八日性印遷化のり宝積寺にまゐり其地湫隘の  
て衆徒と客がたんと患へけし西尾乃水カとて大草山の西小  
の地小禪刹と廣く營改く大叢山福嚴寺と名づけ性印を  
開山と盛禪と二世と此人道徳神小なり其頃日那  
関田村に保城宗八とあり者あり強壯勇悍なり盜賊と業と成ず  
曾呂利とゆふ其黨類多く追討とあり人と殺すありに延徳元年  
の夏疫とやと死と其黨の者共盛禪和尚と請とて棺と奉んと  
青天俄小の曇り雲濛のめく雷雨車軸と流とふ恐怖にぬ者  
ありに和尚炬と秉とて一田相とて曰三世諸佛亦如是歷代  
祖師亦如是天下老和尚亦如是汝亦如是我亦如是棺と扣と華  
三下とて曰翡翠踏蹴荷兼兩鷲鷲衝破竹林炯とれり棺上に

穩坐して勃然時小の中にあたりて曰極重惡人天將罰禪師不  
許我空去と大笑一声ありて天ののめく晴り見聞とる者嘆異  
せり日域洞上傳小なり性印盛禪の傳ハ傳  
燈録小もありかて天ののめ  
り小牧合戦の兵火小なり廢類小及びを同四年周省和尚茅  
舎とつりや曰貫小復とり○本尊聖觀音木佛座像寺宝性印  
盛禪  
二世の画像西尾道永自ら圓とて瀆と盛禪にや其洞小  
坪開福地坐断乾坤西天東土盡是見孫とあり  
水小流とて盛禪の取山の入り座禪にけり彼の辰聯の下より清島偏出れり  
石とて井新とて平生の園水とて早懸とて個とて今に盛禪人業  
して名座禪櫻跡石察の石あり今に盛禪  
和尚毎夜樹下に禪座とて名づけ  
曾呂利塚田村にありむらびとに盛禪宗八とて盗人ありとありとや里俗とありと  
つとて京ハが子孫傳於松とて小の伝を公近仕とて公家都とて事ありとて所慮死とて  
との目とて四里小近ゆり出川村小なり延徳三年とて天正十年とて九十九  
餘年とてこれ京八とおねとて父子とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて  
の所人ありとて此の小を老に開田村の曾呂利とて八がを盛禪あり其頃とて其頃とて其頃とて  
とて此の傳をいふなりとて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて  
とて此の傳をいふなりとて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて其頃とて

勝川旗竿

勝川村より約三正三年とて久多津陣の時 神君とて此の川の名とあり  
に勝川とて一勝とて此の川の名とあり



盛禪和尚の道德火車の怪を退る図  
 和尚の道德ハ本文に委し火車の怪とつて俗説ハ  
 天正文祿頃の怪談小あをし幸うや越後国奥沼  
 郡雲洞村の雲洞庵十世北高和尚といふも学徳全極  
 の高僧にて火車の怪を退けしといひて火車落  
 乃磐石をて今も付室といふなり北越聖譜かたより  
 も天正年間といひるに因る所ハ文祿のころもふ共に  
 怪談すつたれ其形容の異同ハ論じらるに足らばといふも  
 児老の女伸と懣せんが乃鳥山石燕が百鬼夜行  
 勝川春英が異魔詭武可誌といつて俗本に  
 画きしは火車の関か妻と折衷し  
 画せしあり

美濃  



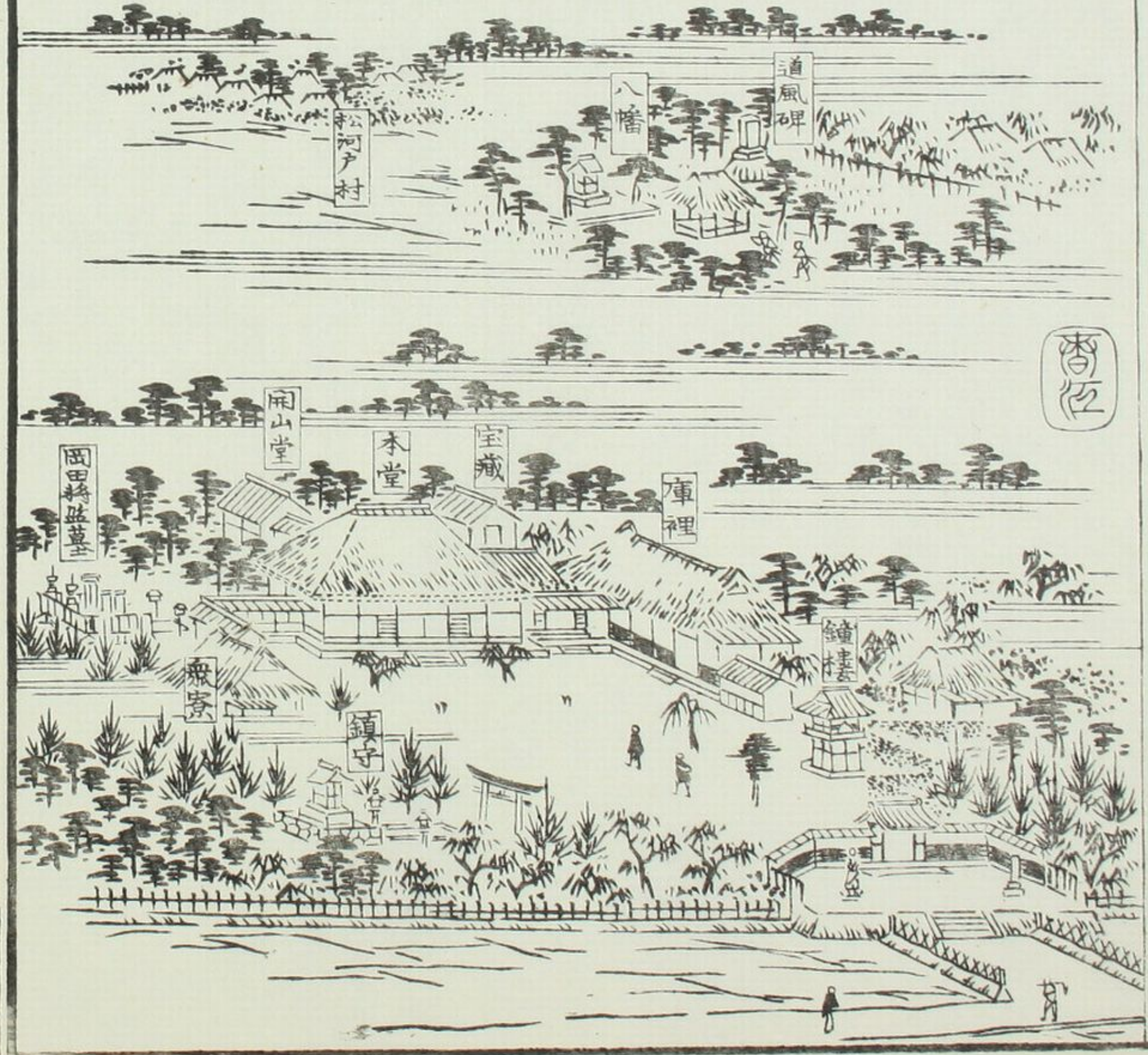





大永寺  
小野道風出生地

聯髮偶談  
曾自松川出異才書  
家三迹獨居魁怒蛙  
攀柳工夫長渴驥追  
風草聖閣下筆遍題  
能得意寫經嫌帛欲  
或堆帝祿賤奏殊奇  
絕避火時隨石右朱

岡田延之



ち頃天心の頃没収せしむ

小僧の母之岡田と其子助ちの孫也其寺に  
當ちの権越めが天正十二年と門守佐雄公の鼻氣

堂宇も衰廢せしむと長末伊奈侍守

檢地の時由緒あり古ちある寺領のうら若干と附

一岡田伊勢守も造管と加什物おと寄附せしむて 東照宮

の清社とて又天満宮の社と境地の外にまつて

鎮守に次 岡田將監より末流して安紀流し

本尊 親迎の座像惠心

寺室 天満宮の一軸ハ管公の自画賛あり北地

西天山石山寺 附左村あり天台宗也因密院未定

元年中道山上人の開基と云ふ

高牟神社 田村ありけり

延喜神名式に高牟神社

本國帳に從三位高牟天神 一本正四位下

高見天神 例祭 八月廿五日 神幸あり



吾孀の遺記 守山の望れ名のおもひのきこもはくくに油と志く所 尊海僧正

靈鷲山長母寺 因村のち本寺あり 高倉帝の治承三巳亥年山田次郎

源重忠其母の菩提の所に建立し觀勝法師として開山して

予て破壊せりと弘長三年無任大田國師尚山に未任あり

今の宗とあり 無任國師道跡考に師諱無任字一田別に道跡と号後嘉祿二年丙戌十二月廿八日卯時相州漣倉にて誕生後推原景時の末裔なり父の爰に

以後は里の生まれし人、大果報の者なりと告ぐ人ありと云て爰に 曆仁元年十三歳壽福寺に入して奉役と勤む仁治元年十五歳下野の伯母の許へ入り四年十六歳孝州へ入り親族のまかりて寛元元年十八歳孝州法多寺にて剃度して一田と号次大元治三井の名徳大半國宗に位次師則三井の四輩教王坊法橋小松に俱舎論頌疏と聽受す寛元四年二十歳法身坊上人に在り法華玄義と種問も此年剃度の師法音寺と讓建長五年北七葉師素より三葉兼徳の志ありに位坊より律院とあり同年世良田の長樂寺に行て景朝上人の就て教誨と聽誦す建長六年七八歳道世の才より速く七年北九葉園城寺に上り英道坊上人に就て止観と疏多し其より南都小行て五六年のる律宗と策次弘長元年三十五歳又南都下り壽福寺非願長老の座下りて同字徑と號座禪小志あり一年も満ずるに脚氣の病起りて坐禪心小懈弘長二年三十六歳元來密教相傳の志ありあふ和州善提山に上りて當り善徳東寺三空院一庵の事相悉く是と號す法相宗の法門も此の如しと學ぶ其頃聖一國師東福寺に在りて大に教外別傳の法雷と號す師則菩提山より直に東福寺に在りて國師と拜して天台の漢頂谷の合行秘密灌頂と傳へ大日徑義教菩提心論永嘉集宗鏡録等と号し日夜教して教外の禪旨に考次弘長三年三十七歳本州木下寺

冥誓山長母寺に未り位次弘長六年五十七歳沙石集十卷と著す予子無任道證これを受て京都西方寺に於て梓行は書令小至て盛に天下小行り僧俗を驚かし予は後とらふりありひびきのちにつら天下のりて中とありて高麗樂と号して二月の初壽と號する海物と作りて徳者といふ者に授け家にありて終りひ今に於て坊名に其寓の河多く法華經と用ふ所謂狂言詩語の業とつて讚佛乘の因轉法輪の縁とありんとのことありや永仁三年六十九歳善提山に上り加持土沙三斛三斗と取來り山内小散一布く此山に葬す所の七尺得脱の爲なり正安元年七十四歳聖財集三卷長母寺にてこれと著し其後蓮華寺なりて添削改仍て今現に長母寺の座下りてありて正安二年七十五歳妻鏡一卷これと著し其後三年滿八十歳寺内金剛幢院に於て雜談集十卷これと筆次予子慈眼と号して受て本州万徳寺にて梓行次師と號し無翁に讓りて内松尾軒に退隱し予自肯像と号す 肯像今改なり 西和元年壬子八十七歳十月十日遺偈と述て曰一漚浮海八十七年 風休浪靜 依舊湛然 泊然して入定也と云 天文十五年大田國師と號すかくて在任のころ伊勢の桑名郡益田村の蓮華寺と善常と号し四十餘年任職のころ常に熱田宮と信都教とを宮ありて大井も師の道徳と作き多いて五種の宝号と号り口多し今も多し散失ししりいひ傳へり其中の一品と唐躑躅と号する名木ありびりり人け本ととて庭前に植へに忽ち乱れり元のゆくありて因果物語に及りり國師入定の後益田村の善常と号する堂舎僧坊覺とありて秀吉公に没収せりて是利織田家の家附ありて頃も廢りて教坊舎

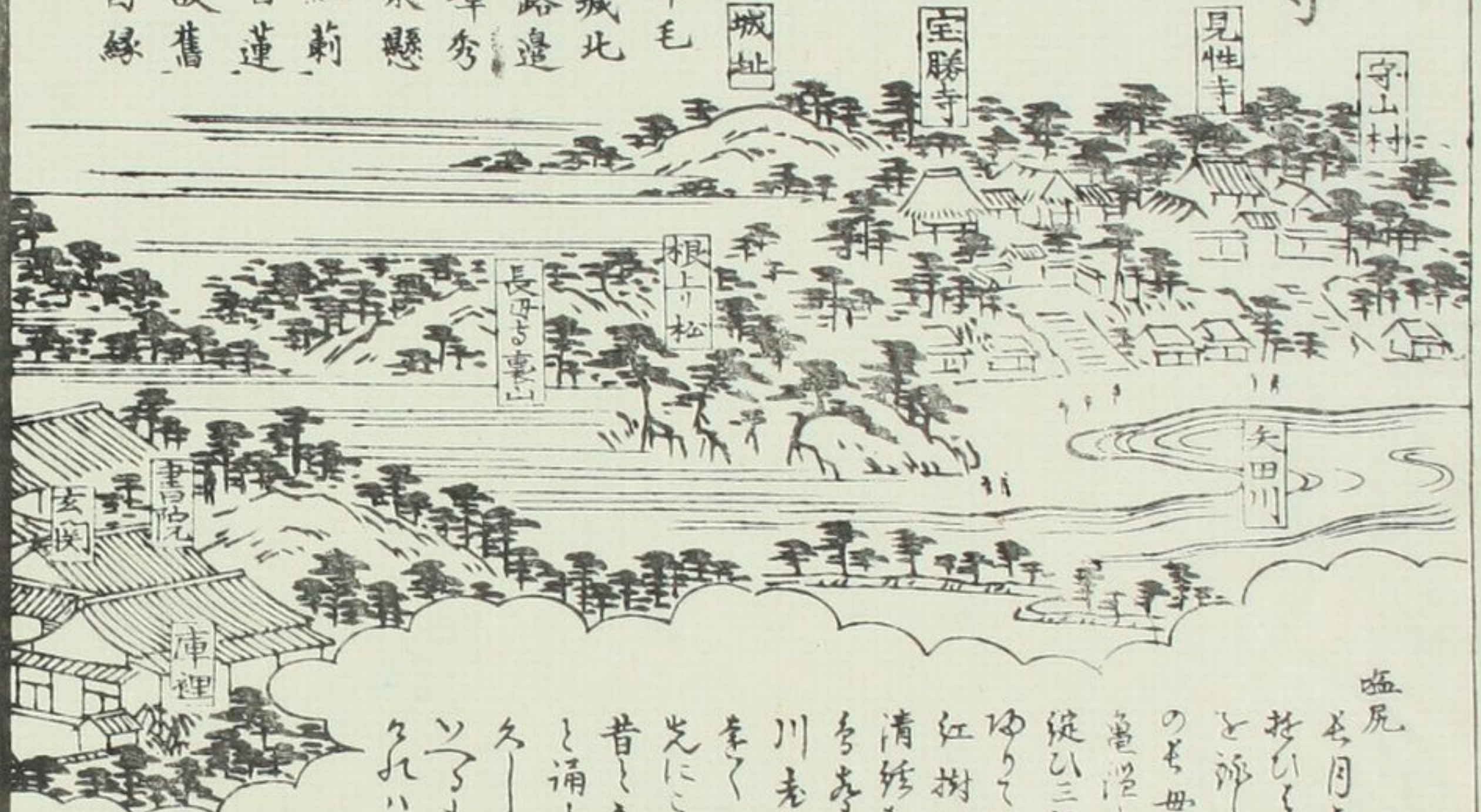


あまの道  
 禁中より御倫多  
 とくしつうれ  
 至徳の徳のまは  
 るありや  
 尾張書記 虎竹  
 岡山に  
 心向の  
 ちや  
 せんしつ

道切  
 けむは  
 ちんあ  
 遊母寺  
 亞満

長母寺

金山橋 僧布毛  
 精舎府城北  
 三門驛路邊  
 開園千嶂秀  
 鳴玉片泉懸  
 彩壁映紅荊  
 淨池植白蓮  
 相達如故舊  
 堪感宿因縁



塩尻  
 長母寺の吉根の電氣に  
 掛ひとく道正と昔秋の掛糸  
 と津曲村の樹色とありけり  
 のも母とありぬ無任の願を  
 遺徳と標で東に離れし  
 従ひ三柱の嵐今に南山の白を  
 仰りて両高の決眼小信ありい  
 紅樹山色と碎しけり或は碧流  
 清姓とありけり舊蹟人ありて  
 多々岡に隠れし松田の裡山  
 川老を孤居雲外におろし  
 先にくらひの姿えりけり  
 昔くありの西風又伴若吟身  
 と痛く寺にありぬ後さ  
 久くあり人ありけり  
 天野信景

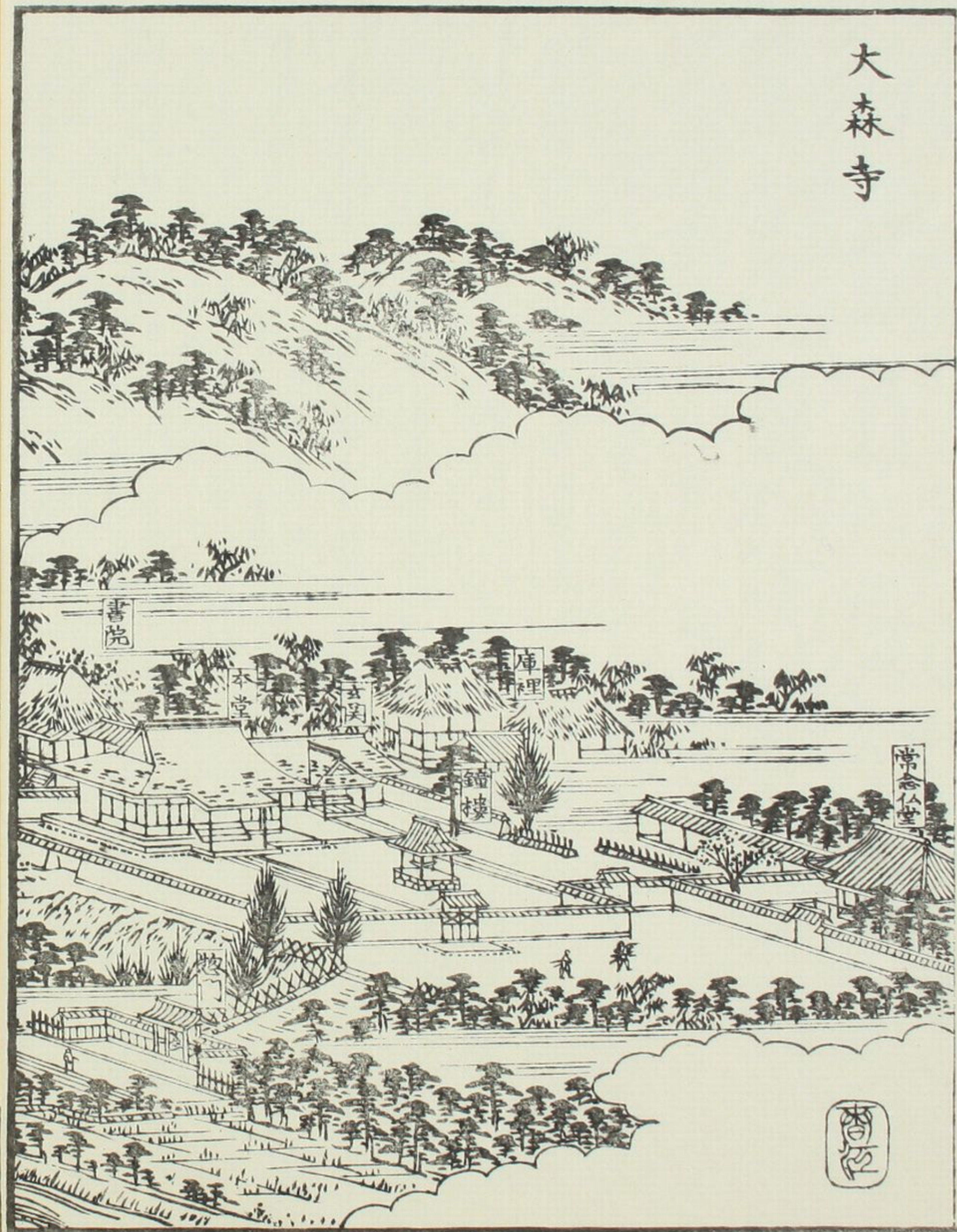


齋

天田河原



大森寺



香印

興奮山深積  
翠濃蕭然物  
象感心骨古  
墳猶見風雲  
氣不怪當年  
產巨龍

鈴木真庵

樹の花さる  
吹く心夕赤風に  
海の白の如  
里かくりりり

至清堂





二年四月十三日苦戦して義の爲に命を盡し其母悲泣して居たり二子皆菩提の所に  
都の佛岡美地と稱すんとて登りけるが正宗菴の居傍にありたりと云ふ事ありてやうぬめて  
菴の力とて人々に傳へりて佛殿方丈庫裡山門等の修造を成し其を以て名を佛岡にありたり  
三條とありてはもと女界一又定朝の刻りて地を賜ふ事ありて是れ也方丈に女界一兄弟の青徳と  
賜ふ事ありて善善學惡の二童子に擬して地を賜ふ事ありて是れ也又方丈に女界一兄弟の青徳と  
名づけしと清光院御殿忠信と法号一永く進福の志と傳へり又此寺年々修造を成し其れに  
もあつたものと傳へりては科の科なりて是れ也地の中に地を賜ふ事ありて是れ也  
この二の文に以後為造立金子千枚此御寺牛刀二日置之也六月吉祥日ありて是れ也  
隆興(つ)るは是のちにありて碑を立て光明院王華昌蓮と名け其後年月を修し其れに  
哀廢せしむは時をあれしは信村氏心と今も彼謎の文と考へ牛刀の丑寅二日間の字のまを  
あつたりとちの是の地の地と傳へりて彼千枚の金と考へりて是れ也  
少き天文年中大雪和尙堂宇と考へりては四聖にありては天文年中雪然と云ふ信村氏とありては村の  
兵火のかり大破し及び修造ありては天文年中雪然と云ふ信村氏とありては村の  
今の地ありては本建せしるは貞享五年二月 国君より其令若干と寄附ありては信  
其恩と附し宝蓋と考へりては是の頂に繫りて又名古名をの土水谷其嗣信忠信の孫と修飾し  
かゝりて藤原とありて播州明石郡奥畑村に昔より佐藤氏と名けりて者ありて嗣信忠信の孫  
孫ありてはひはれしは家には信村の大表村に彼足井の位牌本縁のありては信村とありては文政十年  
三月書状とありて彼地とありては真清田清田が御廟のありては是の地の地とありては信村の  
古塚三つありて五福の兄弟子母の墓とありては寺室に貞治年中書寫の大般若百卷あり  
東遊記に奥州白河の城下より一里半ありては川とありては川の名は福とありては甲曹堂と  
甲曹の舟人長刀と持する本徳二軀ありては  
次信忠信二人の妻ありては

滋川神社 印場村 延喜神名式に滋川神社本園帳小従三位滋川天神と

ありては友社とて往古の今の地より十餘町ありて滋川とて所ありては滋川

ありては後今れ地に移せりてありて大嘗會の齋場也記ありては

村名もそれありて 日本書紀に天渟中原瀛真人天皇五年九月丙戌神祇官奏曰為新

並食ト 丹波の上の則字印行日本地 葦上 國郡也 齊忌 齋居此 則尾張國山田郡次 須岐 則丹波國訶沙郡

たる齋居の齋場とありては村名ありては 御歳神大食津神大宮賣神等

の御膳神酒あに閑りては教神を祀喜りては 村小境地廣く五

六町と隔る所小多居の流ありて今田とありては又本社の後の方に古

塚ありては其上に古壘ありて海潮の引小随ひ水の盈涸とありては

わたりては今絶りて又直會殿の流今小祠と存りては南の方庄中

村ありては近年ありては稱し諸人崇敬し病を治るに必矣然りて

平愈日原とありては近口とありては及は原を越他國よりもとありては

甚紫昌なり 天正十二年九月廿四日本多 末社 天王社 白山社 報訪社 慶岩社 多度社

春日社 須原社 熱田社 熊野社 豊後守廣孝の制礼とありては 山神社 八童社 八幡社 一御前社 金神社

神明社 紅梅社 老松社 例祭 馬の頭 九月廿五日

萬安山良福寺 田村ありては條清宗系都妙心寺末 近湯院の久安年中開創ありては

永八年末年 名古を改秀古の 梶山和尚 国祖君の命と奉りてありては中興す 梶山八丹波

御馬村の庵ありては梶原平三景時より九世の裔孫茂助景義の五男ありては境内に古老ありては



龍泉寺

遊竜泉寺

去年曾說竜泉寺  
今年思遊蚤月天  
濃緑已粧初夏景  
勝勞猶帶暮春妍  
不慚老約看花伴  
却愛同聽入塢鶻  
作夢山僧未致意  
沙莊久矣賦詩仙

陳元贊



遊松洞山

日本諸遊記編

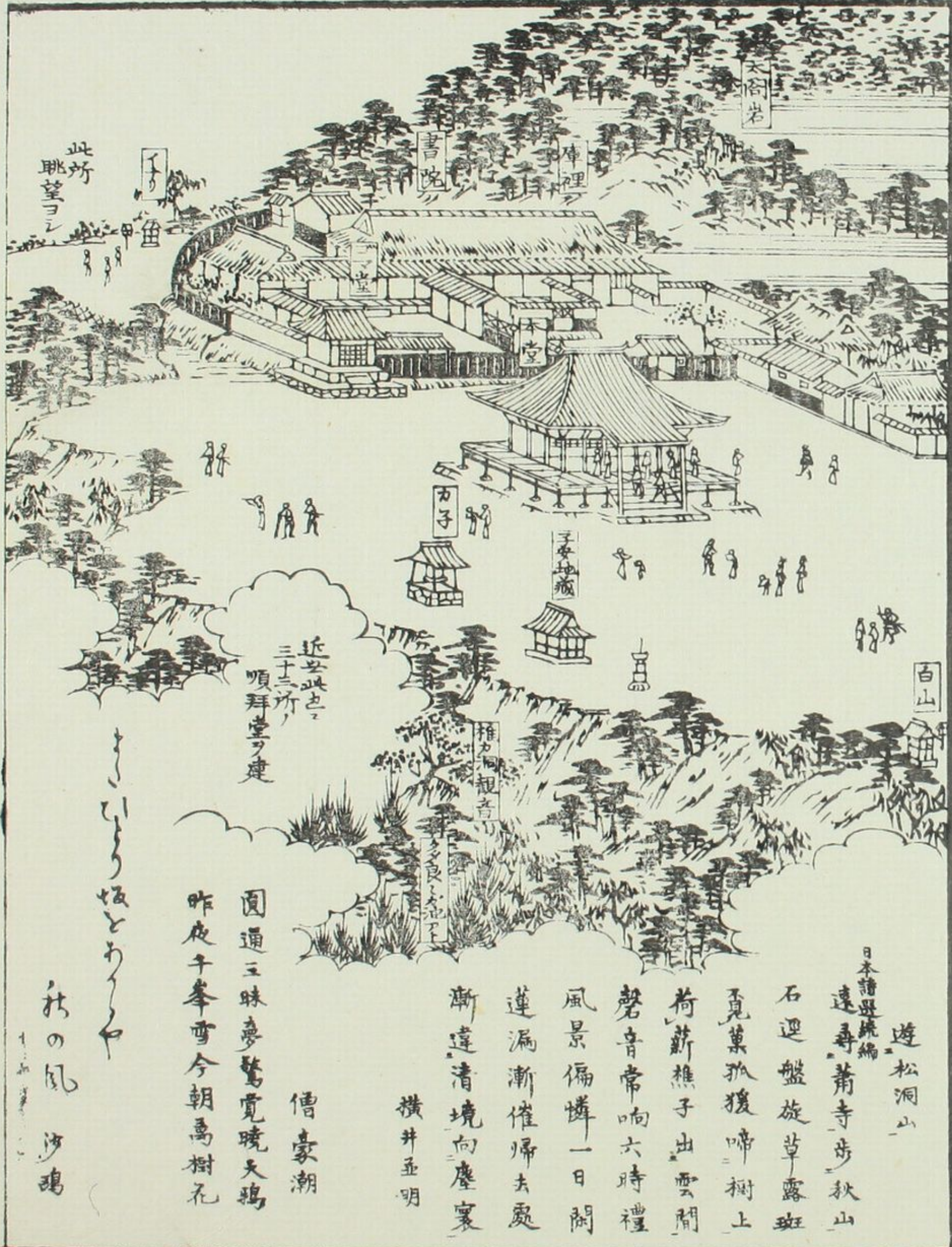
遠尋蕭寺步秋山  
石迴盤旋草露斑  
覓菓孤猿啼樹上  
荷薪樵子出雲間  
磬音常响六時禮  
風景偏憐一日閑  
蓮漏漸催歸去處  
漸遠清境向塵寰

横井孟明

僧蒙潮

圓通三昧夢驚覺  
曉天鴉昨夜千峯雪  
今朝萬樹花

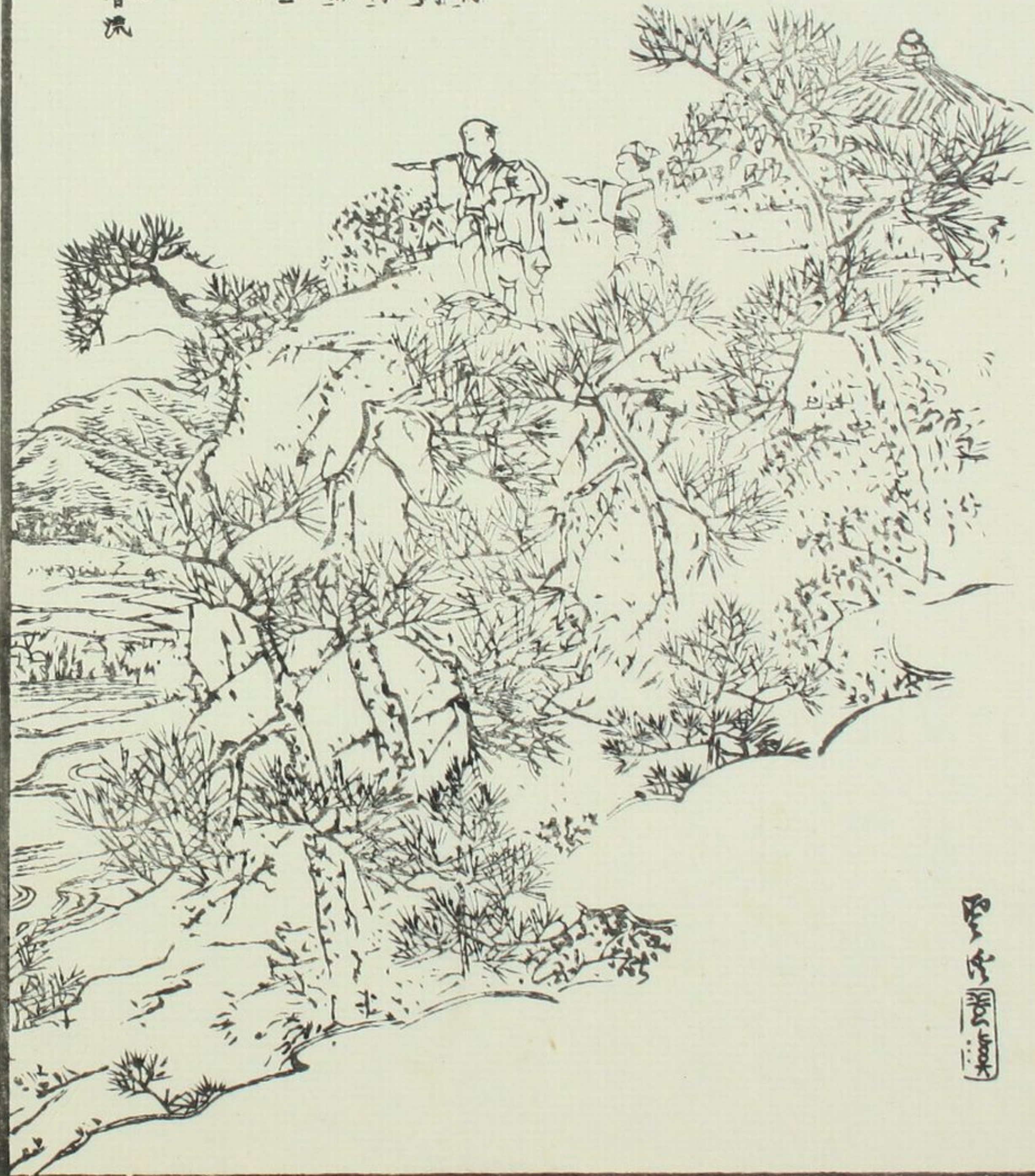
秋の風 沙鷗





龍泉寺  
裏坂の  
眺望

釣虛詩集  
聖地冠邦内  
久聞八石門  
葛山猶境靜  
宿寺更香蒜  
一室揖多景  
小窓臨萬村  
忘歸游十日  
莫笑似玉珠  
清水春流



山本

遊龍泉寺

古石層苔細 逕長白雲高  
聳梵王 鄉間僧一鉢一瓶  
句謁佛三十三處堂玉野  
清流分派脉金城夕照帶  
輝光此間閑說稱松洞耶  
覺衣襟滋翠香

村田梅邨

まがね  
たりの山は

まがね

雲雀乃夢と

下小すれ

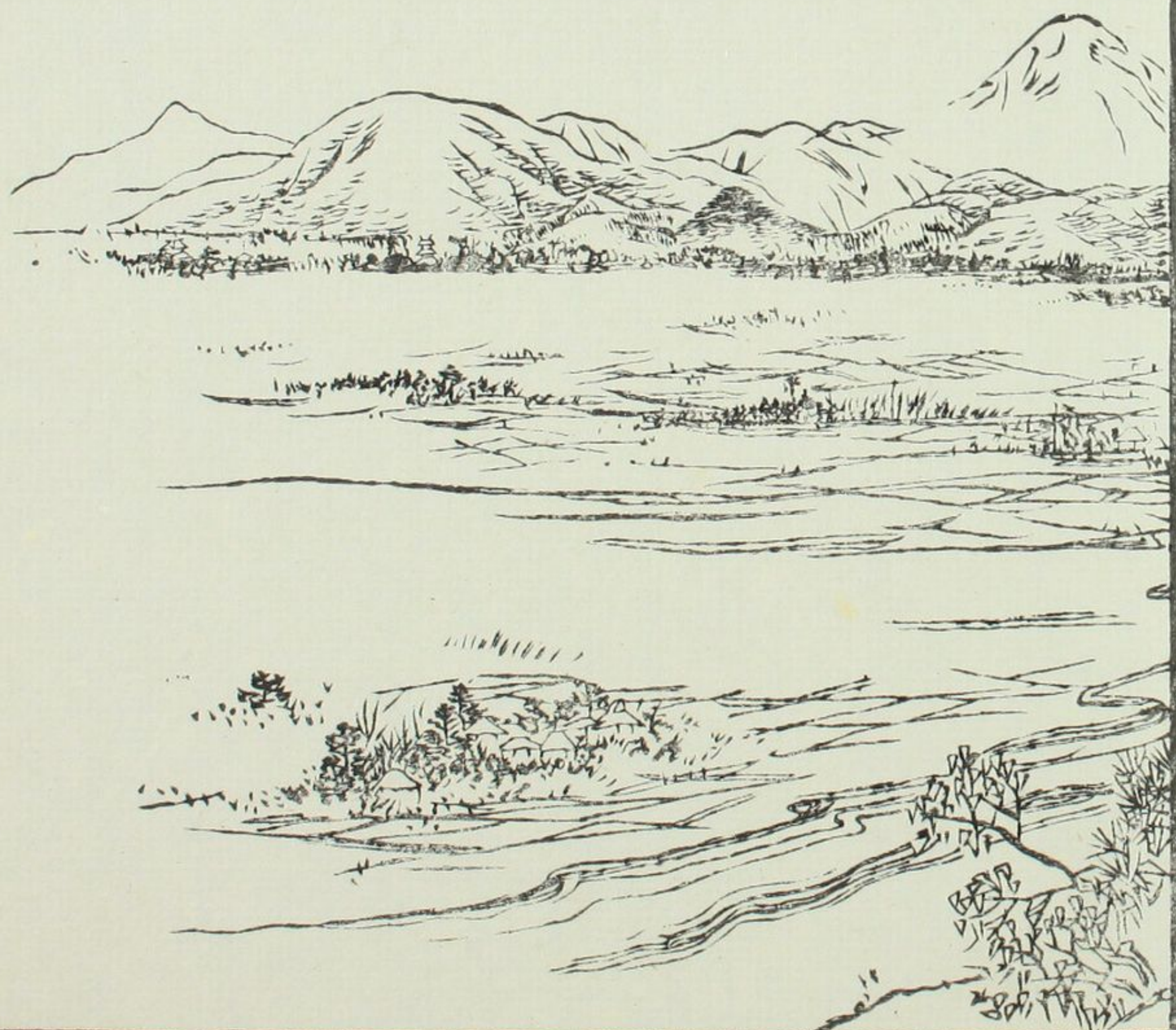
まがね

山とてやゆらん

まがねハ夕暮 白雲

かすむらり一月

三十二ヶ村 梅居

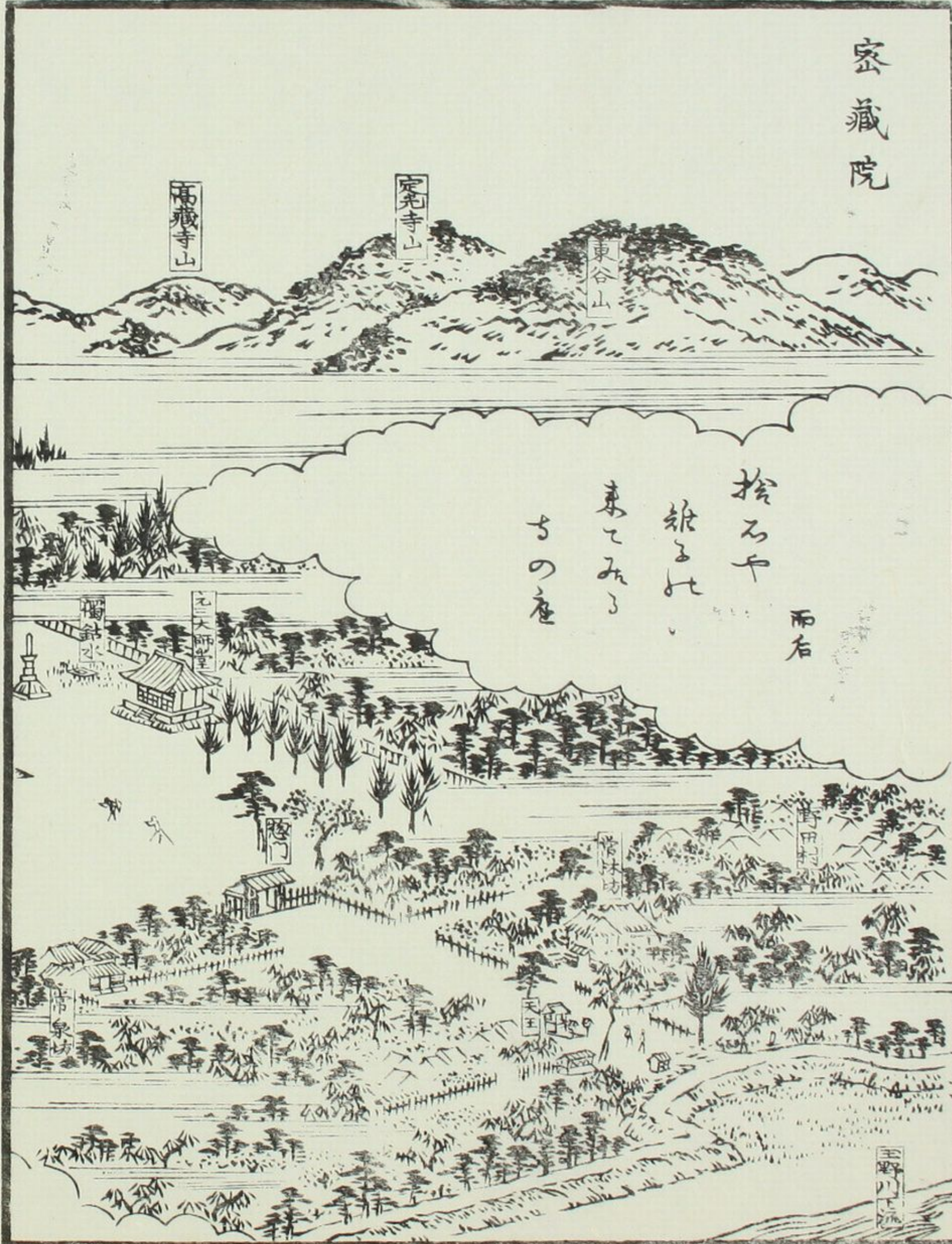


のうらに列し三十三記の一所と中昔より名は此兵火に  
天正十二年長久寺合戦の時秀吉公の軍卒殿堂と焼く付宝  
舊記お悉く失くすと云々三戌戌年秀純和尚再興し本堂  
二五門多宝塔と造りしにむに信じてお昌の灵地と  
ありし殊小近年に開運厄除の守札と紙與す西月七日又節分  
の日さし諸人群集しこれ守と云ふ幾人ともお救を志す  
○本尊 馬頭観音の上に三つや九子の  
多羅々池 山内山なりたらのを解し  
たらと深う造りしやうらに  
周防国の地名も有り海邦各勝地  
小いぢらうとも有り考ふべし  
て撰のつゆりと天和年中の暴風  
小宮傍まで今も名のつゆり  
推木 たうら他の例にありむに  
上りしやうらに古跡ありし中世拵本  
西國三十三所観音堂 近年の建立して山内所々に  
つゆり多しを巡拝する者少くは  
當山ハ勝川の流る傍る山居て書院及び本堂の後より裏山より  
西北の眺望しむらあり西に金鱗の光わがやうりて小牧山尾法不二  
本宮山ハさし尾山とあり近玉の連山波濤をありし勝川の緑

水清冷りて曠野の平きうらに勝原の村あり柵面に石と下せうら寸馬  
豆人の継承らうらむと風光他の場とて之更に城東才一の絶素雅俗海  
を忘るの勝地とありのありは山ハ童の清山とて和名の名所  
あるれさしつれやうらん山の清山の夕立のきき 衣笠再大臣  
夫木 源仲西  
遠見に童の清山ハ衣笠の大岳の和名に云うけらむ世にひやくすんざらハとて天正十二年の衣笠臣  
秀吉の陣所とありしはかくまうらハさしやうらん物かりり置らうらとけ馬戎衣のひま  
ひらり寒月邊城の暮閑河古塞の秋むら清らうらりけぬ あれうら人のまきハ丸  
童の清山のあらさしやうらん

醫王山薬師寺密藏院 中田村あり天台宗  
山城国延暦寺末 開山慈妙上人ハ常陸国神田莊の  
任人麻島氏の子うらうらお家の後伊勢 大神宮に詣で佛法弘通の勝  
地と得ん事と祈り十日うらうら童とありたれ 大神其志を衣とや  
思召けん灵夢とありてめらる白珠一顆と上人お授けり且其る院を常  
づ勝地と教へしはひぬかとけ里の者男女数人の夢に救万尺の  
楮多毎に炬と持天地と照して衣に集らうらんハ火災のきき

密藏院



暮春經龍泉  
寺至野田奈  
藏院途中口  
院內堂壁有記  
壬寅年數子來  
游者余亦其一  
人也餘皆歸泉  
下僅存者余白  
蘭草而已可不  
慨然乎因句中  
謂之云

千鳥臣

見三集  
乘齊行尋古佛樓苑  
霞樹傍遠村幽江頭  
置酒寬愁抱壁上留  
題悲昔游九折阪迎  
青草渡二川水合白  
鷗洲將殘生附風光  
去春老芳菲何處求



とやうんと怪しむ事限あり 或は是と考へ解さ諸人告て  
猿ハ山王権現の使者矩ハ般若の智火必天台の言信来りて衆  
生の迷闇を照すといひ居りて慈妙上人 大神宮の承現より  
ては村小来りたればすといひ大徳の言よりて人々悦び  
ありて嘉暦三戊辰年 尚ちと建之七堂伽藍と營之  
寺傳及び三国傳記本朝高僧傳等に及りて切近諸本の傳侶  
来りて慈妙の法と云ふ者日々に多く尾沼尾濃三河幸江渡河  
伝流尾沼伊勢攝戸肥後おまの土佐に未ち留名て尚ちの指揮  
をうけ来りて中昔の乱世小言伝通ひてき玉の末ち断絶  
し尾濃のうららふ尚ちの流下に属して未ちくる寺院今程百と起  
りて折尚ちの傳法と葉上派或ハ藤本派と稱する事ハ慈妙上人  
京都建仁寺の葉上僧正号東西の傳と田頭房尊辨小文て禪密兼  
學の一流尚ちの開權と與へて

東西一ノ比叡山にありて禪密の二兼と云ふは  
折小一流を與へて衆徒と教諭一葉上派と

名づく尚ち其規法  
と云はれり  
其後中興祐権僧正の時より 東照宮の別當威と

兼帶 一も尊壽院小住一尚ちに代僧と云く 寺務と監せ

しじ ○本尊 葉上派の末に内陣に何所陀  
木徳りて共に天佛なり 如法院 元三大師を以て稱し慈妙僧  
正自作の真像と安置す元祖

元戊辰年より公の清浄と傳へ名を天台宗の八ヶちより一月寺と巡り一傳物  
を註一行法と修一國家の安全と祈り念生佛の結縁と云はれ東叡山元三大師の  
像と月毎に攝よと建て山内の寺 灌頂堂 慈覺大師の刻りて大日如来の像と安置  
む久徳を行法と稱し例におれ 灌頂井 慈覺大師の刻りて大日如来の像と安置  
戒と 經藏古跡 む一顯密の經典と納めりて亂世に廢朽 開山松 松樹のりて慈  
徑をもとせり今ハ其跡のみあり 妙上人のま岩

と云ふりてみか 灌頂井 當郡林明村の慈妙院と俗に尚ちの美院と云ふもに灌頂井と  
名づくも加持密見と稱し獨鈷して地と云ふに忽ち清泉涌出り即飲して瓶水に充り  
りて中じり慈妙院派と改て修治の修治ありて尚ちに一井と云ひて被稱鈷水の代り小  
用ひ旧名やうもやう名づくも其外慈妙院の銘向石と云ふ岩りて形好めり 寺宝

慈妙上人奉天供と傳へたれ奉財天女石上を新向と云ひてソハ妙なり

後伏見帝勅筆扁額一箇同宸翰一通同院宣一通十六羅漢画像一幅 獅子香炉一箇 花鳥金  
屏風一雙以上の教品 後伏見帝浄御所をりて慈妙上人の勅して祈禱ありてソハ妙なり

淨病息平念々々々淨修びのありて慈覺院と云ふ淨修をうてソハ妙なり

金屏風一雙架装衣二領念珠一連思恭念の阿弥陀金剛華の釋迦文殊普賢像慈覺大師  
をの弥陀如意輪至其外仏舎利金胎兩部曼陀羅灌頂法器具等々 大猷院殿の淨法

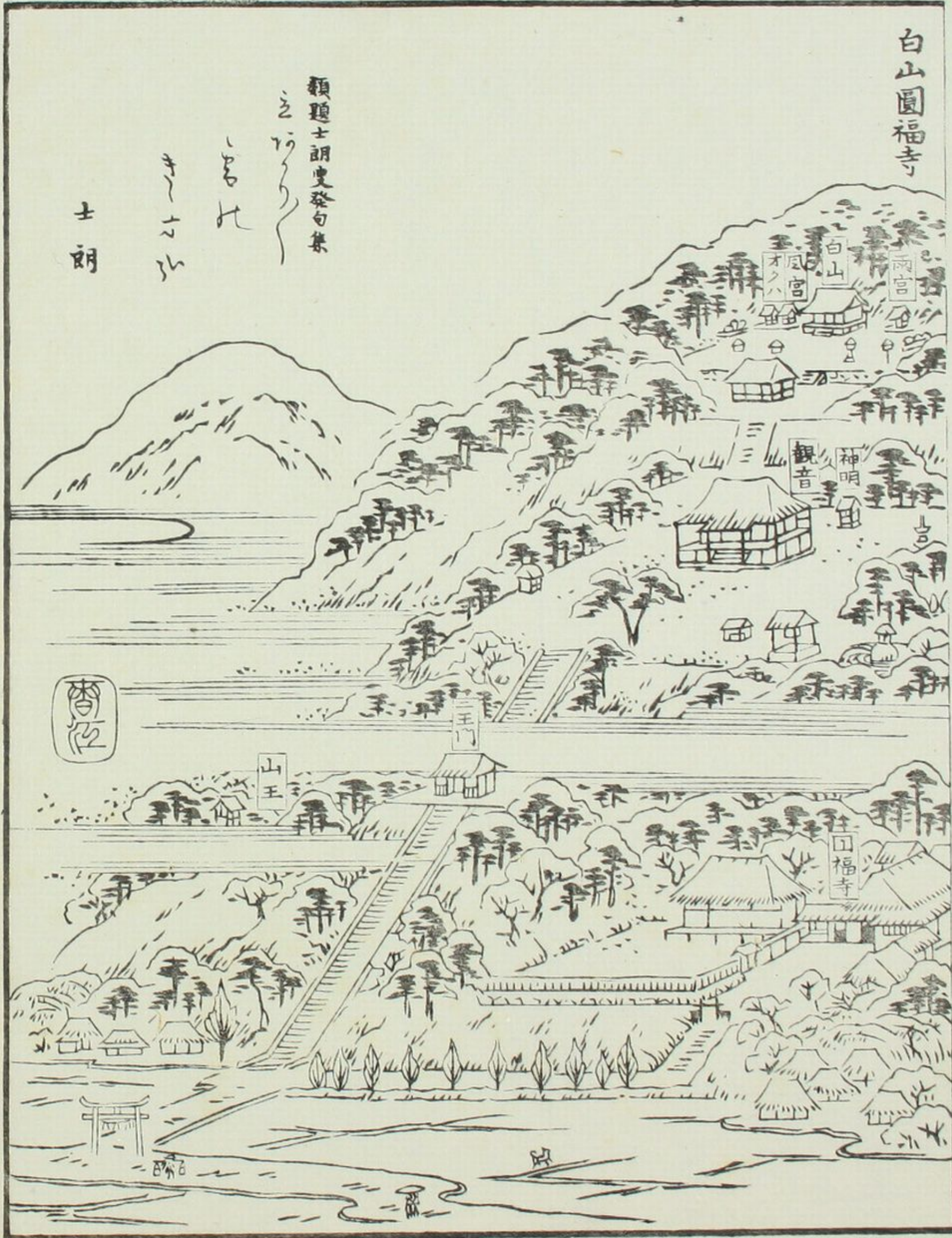
事と云ふりて淨修ありてソハ妙なり

塔頭 む一三十六坊ありて亂世に廢絶して今も残り

五院と云はれ吉祥坊常林坊善明坊常泉坊福泉坊



白山圓福寺



類題士調史發白集

之りりり

きり

きり

士朗

勝嶽山圓福寺

白山村あり天台宗也因密院未む伊勢お阿漕浦小益直とふ  
も人わくく清玉の形ふとあともい昔老七癸亥年四月廿四  
下津の湊船に泊り日蓮蓮宗より東の方とや見え内津山の麓の色に怪しきま  
て五色の光りてにちみりり益直まう矢の思ひをう其所を穿ち光りを透り地か  
本りに四の中のかきよて十一面観世音の吳徳と得り益直よりい波徳をかふの  
てかむ伊勢にゆりける湊道くうて其お岩にまきも徳とくうあけんとするにま  
うて勤い波益直わくし其かおおくうう家にあつぬ衣の裏に漢衣の傳来  
てまに甚華を抄きまに昔我か玉の松島に三世法祖の聖い生と海をくうい  
地よりきりと汝我を他境に遷さんしうやすうやうにを團にあけんとくうてま  
りぬね尾尾かかててその松島のおうに三間四面のきとくう波徳と安んづけれ  
をとの乃修そ行い吳徳にいらんもくう福寺と名づけけり非也九年吳徳  
来りて名福寺と大文字の扁額をかくし門に掲げけり今此文字に改めり又  
直行基甚善と清めて供養の尊解とくうもくういり元より吳徳くういり  
修世當ふ三觀音のうちに列せ寺堂小太鼓ありて神小太鼓九入りり里老の傳小  
旁呂利宗ハ陣を敷うりて例小白山社ありて古社よりが村名も此社  
あり都より傳小昔老二戌年法住とくうと社傳とくうくう惜也

神屋村

日本武尊東征の由内津よりけたと説くいりるに假殿とくう入  
るの通くういり内津の自名もくうくうくうくう所小大極聖社

弥勒が嶺

神屋村と追分村の間にあり美濃の可兒郡廿原村との境ゆて山林産く鞍骨嶺  
なる其嶺は山下の神屋村の強勒井の北をりりかかり嶺にあり名もくうとふ

馬啼石

西尾村のうら内津社の一者店のわくいりり石上馬の蹄の跡つとくうむり  
日本武尊の系もくう馬の足跡くうくうくうくう又けと鞍骨坂くうくう

今天王社あり  
わくくうとふ

内津驛

名をなすり 舟多崎 一山 若狭 下街 通 一山 若狭 下街 通 一山 若狭 下街 通

名産煎茶

内はの山間及び近村 作 舟多崎 一山 若狭 下街 通 一山 若狭 下街 通

内内神社

因現哉之詞其地号内津

延喜神名式 小春日部郡内々神社 本國帳 小正三位

子建稻種命 廟祠也 此命を祀る社 寛平の執

田縁起 小 日本武尊 還向尾張 到篠城 進食之間 稻種公 倭從久

米八腹 策駿馬 馳未啓 曰稻種公 入海亡没 日本武尊 乍聞悲泣

曰現哉現哉 因現哉之詞其地号内津 社今称天神在春日部郡

みさきと捕んと 海入失たし 建稻種命 波河の海

命の社と建 中世妙見寺 祭祀と嘗 稻種

命社 称せ 妙見社 其妙見菩薩 大留村

ふわりととくにうつせらありもつひつて 彼村に元妙見とて地

わつとせとつとの頂の草より定るあり 妙見菩薩の草ハ七佛説神咒經

諸所に勅しありとつたまひに抄は不説勢那伊勢國山田郡の妙見の草ハ今村多し地ハ

もなすといふと本地無跡といふ事より妙見と建稻種命の本地といひあり

つて天正三年鳥有にりりて社記悉く亡びしなりぬ名を称するも

ふわり社の上る山に奥の院とてありて尚社開闢の地といひあり

つる岩窟あり其深さ二間より其中に小祠あり是より建稻種命と

なる又岩上の岩窟あり深さ八九尺常々清泉涌出す 水潮の満干に

凡当社の神饌はありて調とて俗に御塩水と稱しおと小登

道路ハ大石とてうづらて壇とて甚けとて登るとりたやとて

又天狗岩とてハ高敷十丈天の聳えとて奇状あり一の鳥居社

路より十餘町南の方西尾村の地境ハありて 天正五年中院失して

今ハ古跡の存せり 一説に 日本武尊の親裁のつたまひに地ハ今に在り 西尾の

あつとて甚是 例祭 八月十五日車樂とて神專座序の 別當妙見寺 天台宗より

非ハ伴あり 行旅あり 此の大地ありて大に都合あり

松平君山

偏憐蟹眼香





燕繪聲  
 戊戌八月廿一日同  
 春江梅居遊于玉野  
 兩山相對而高聳  
 澗水下其間是玉野  
 川也澗水深處涵蕙  
 宜棲龍蛇淺處屬場  
 可以涉而清潔堪濯  
 纓矣山水之奇絕幾  
 眩人目也賦五言小  
 詩十五章聊以形容  
 焉然何足以抱歎于  
 山靈水伯乎  
 秋光媚我進鞋  
 屐且詠且吟倉  
 卒詩行到屏風  
 巖下看山逾貌  
 秀水逾奇

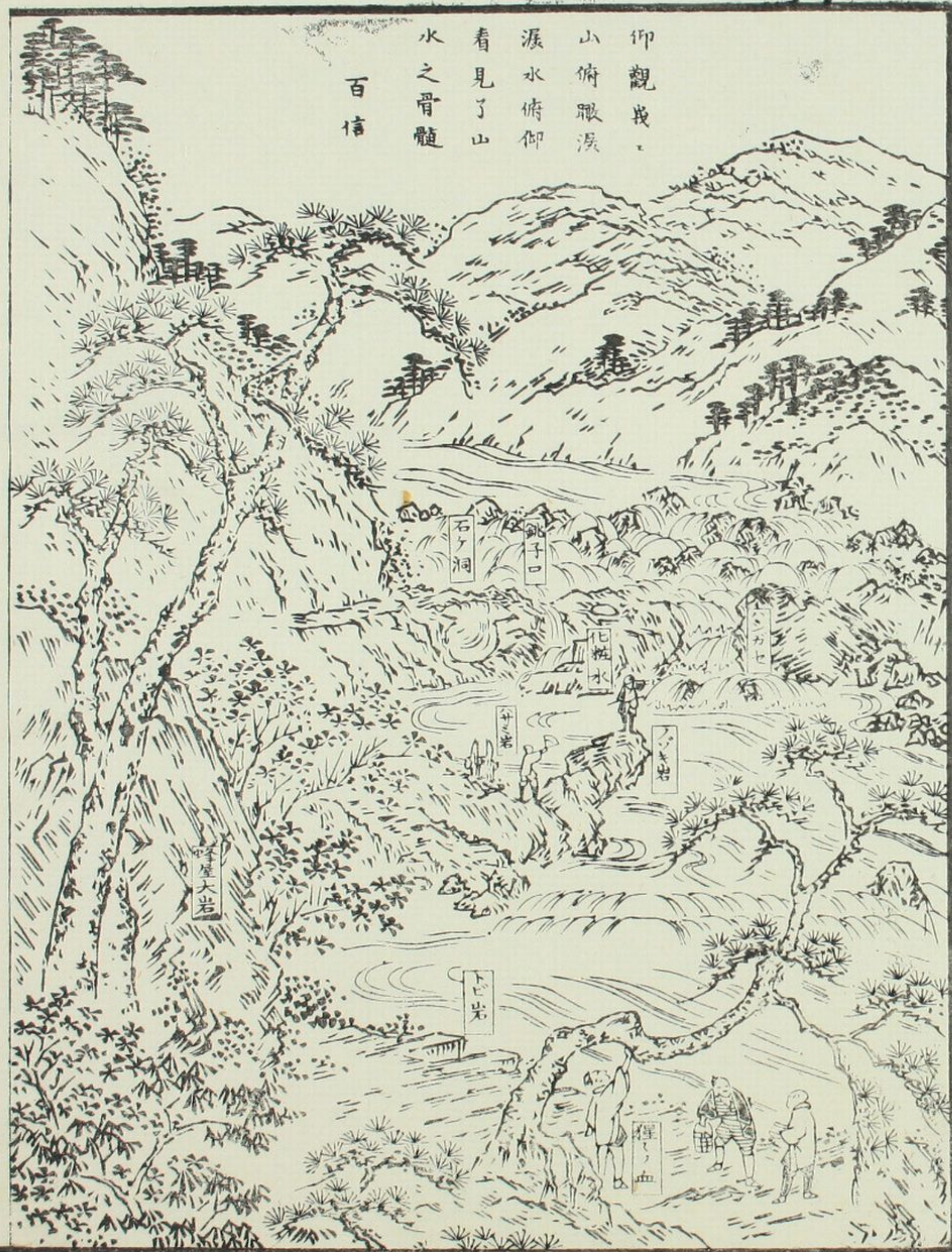
百倍



玉野川

高岩たかいわ  
 小屏風岩こびんぷういわ





仰觀我  
 山俯瞰淚  
 淚水俯仰  
 看見了山  
 水之骨髓  
 百信

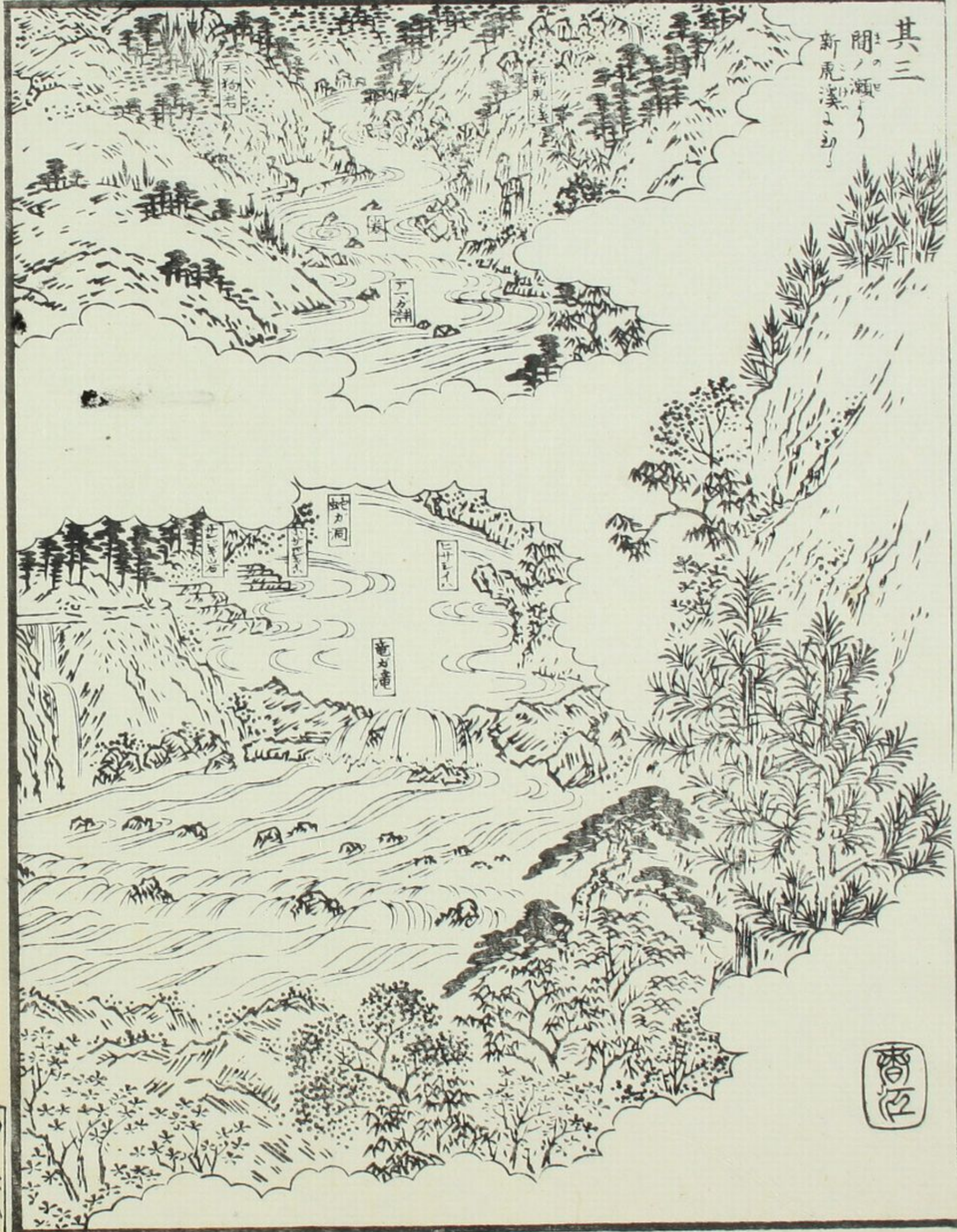


其二  
 蜂屋大岩より  
 橋を越へり

香江



水忙而石静  
 石默水還吟  
 如斯水石美  
 枕漱信吾心  
 百信



其三  
 問ノ瀬  
 新虎溪上

香江



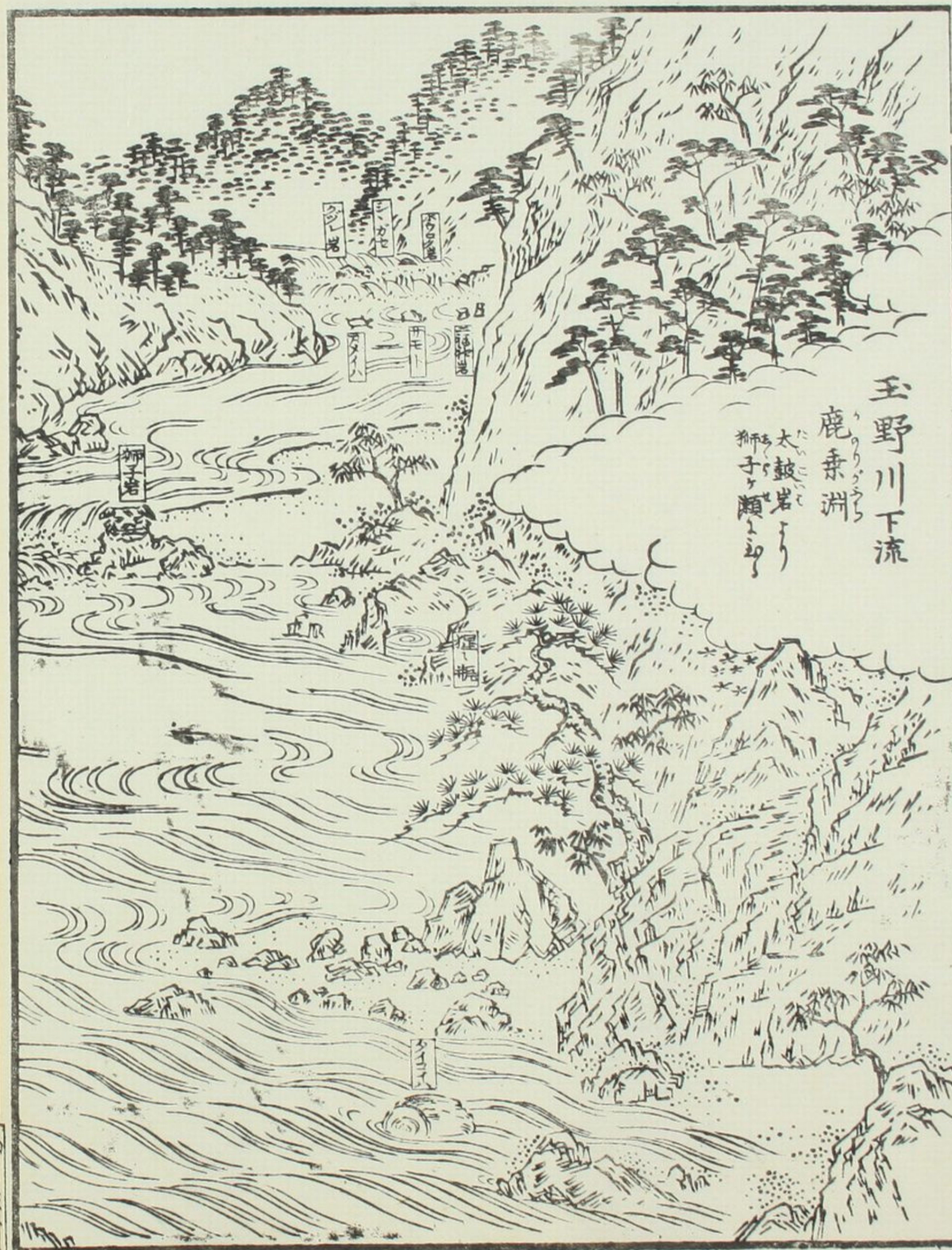




跋涉山麓水  
未遊玉野川  
山水之奇絕  
沉疴頓覺痊

百信

香



玉野川下流  
鹿乘洲  
大鼓岩  
獅子頭

とつべの  
尾張戸神社  
當國山



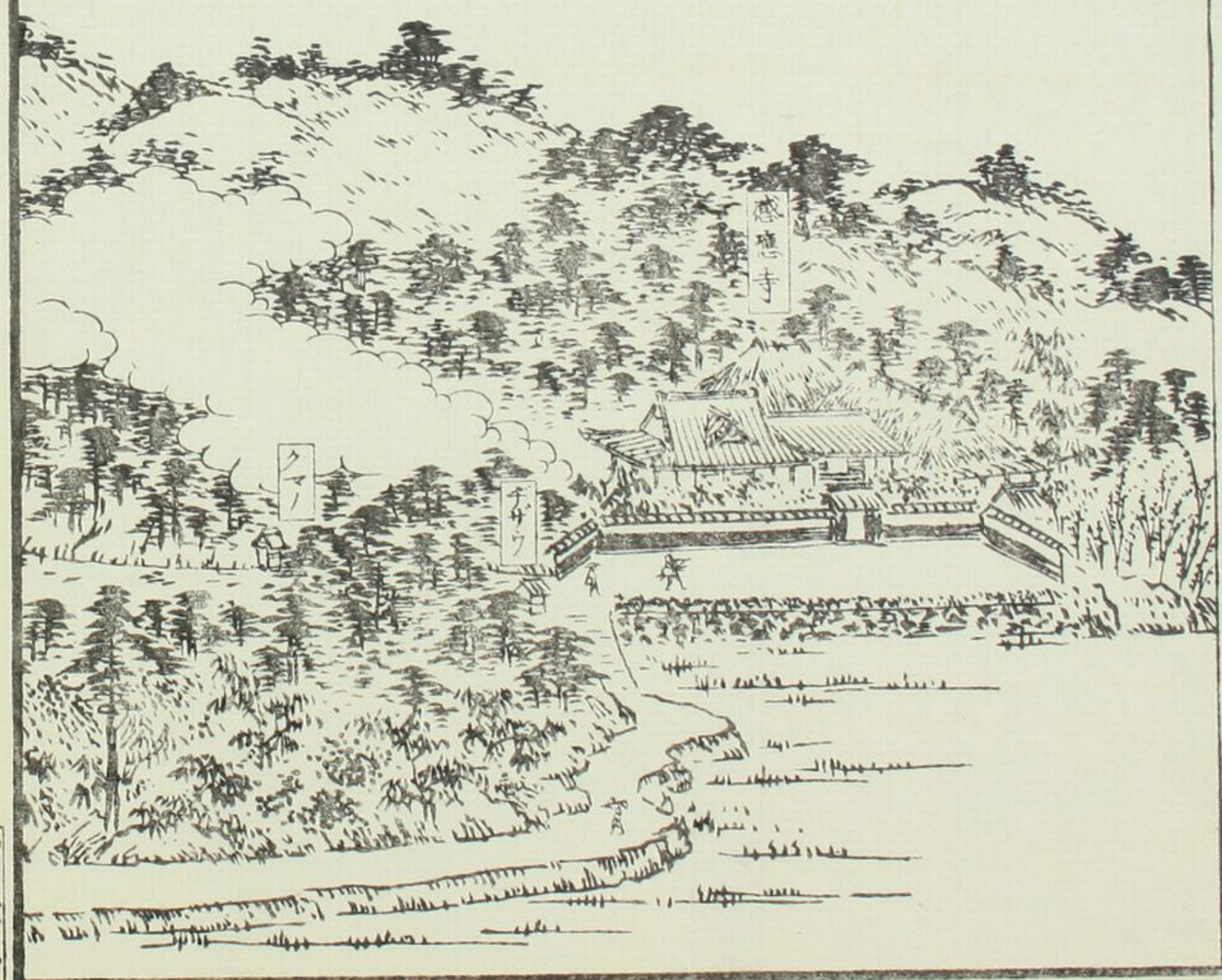
かみむすをまき  
まのまきとつべ  
玉の玉の沖  
二村表房



香山や秋野  
ついでゆのま  
中后

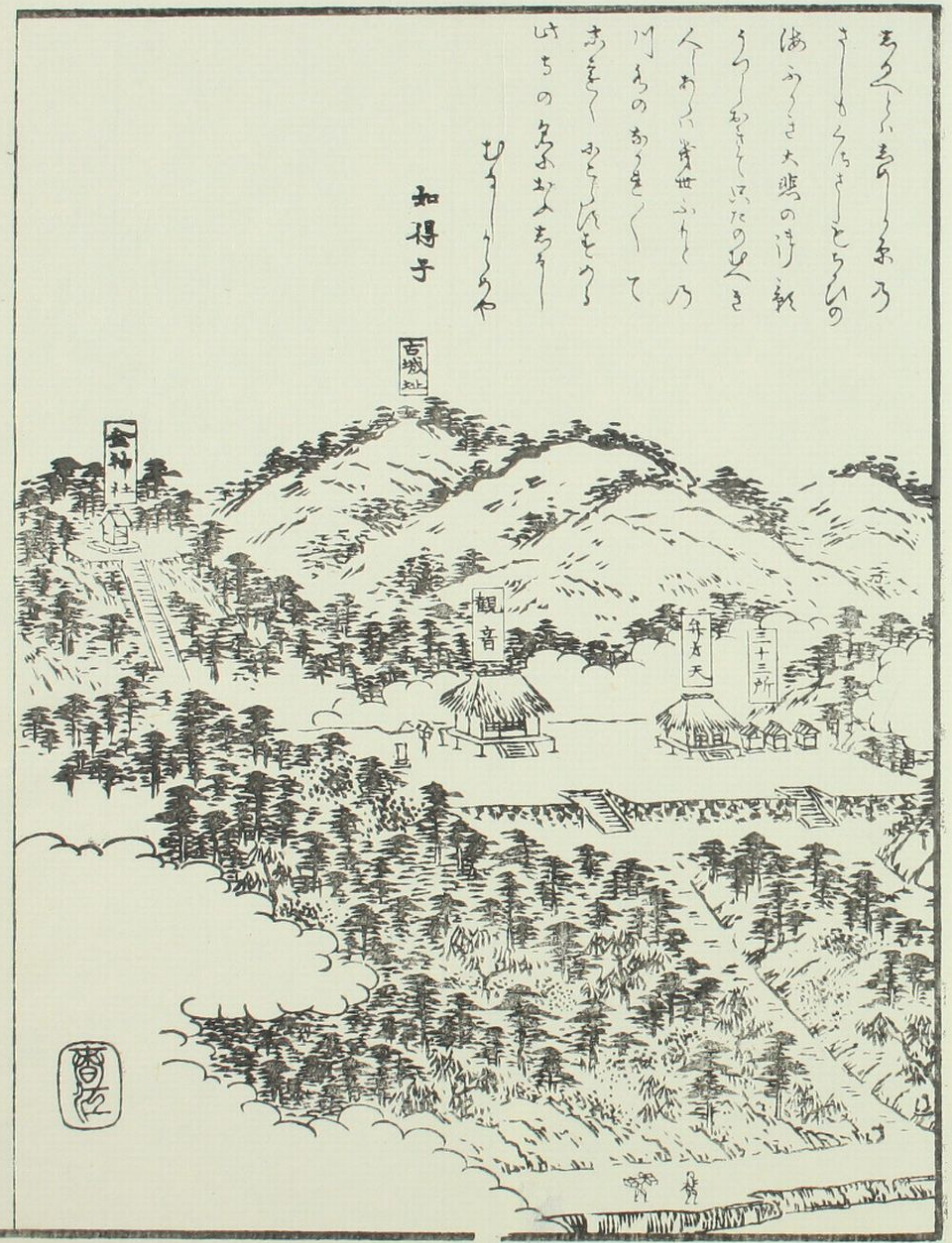
金神社  
感應寺  
磯村左近城址

昔にありし松のまきせの  
 けしきりけりしを  
 わかぬむすこも  
 わけりしむすこも  
 法のけりし  
 ありしむすこも  
 ありしむすこも  
 ありしむすこも  
 ありしむすこも  
 ありしむすこも



あまのつみり  
 さもろの  
 海ありさ大徳のけりし  
 うつりありし  
 人ありし  
 川ありし  
 ありし  
 ありし

如得子



香





石樋

上水村樋がほかり  
け村のうしろに洞天竺  
惟子池の西にうらま  
川小流の細流は世と  
ゆるに大磐石の  
面を植の  
あやう  
際  
わ  
人エホ  
と  
流  
ふ  
と  
系



お

くけいほつせいの  
唐さあをいあよ

せ

乃とたれ

石ころ水の流のつとれ

ふりゆふのり白の糸

い

い

い

い

い

い

い

右五首 正韶



應夢山定光寺

香掛村小川の臨濟宗 宗部妙心寺末

尚ち建武三丙子年

勅謚覺

源禪師の開基

存所名ハ慶字ハ平心肥前国小味庄千葉氏の子母ハ平氏弘安元年丁亥に生じ應安二年正月八十三歳に寂す永

和四年 勅して覺源禪師と謚す委し扶桑僧室傳延室傳燈録本朝高僧傳を

元和八壬戌年五月廿八日 國祖君御遊獵の折り境内の山林及

び皆掛村のしらと寄附し其後於此地小浄心を留り

じつひちぢぢに於てたまひに安三年庚寅五月七日

御靈柩を尚山小む久奉り住

僧唱堂導師と奉り山頭小おさ免廟壇と建て永く鎮りし

瑞竜院君佛殿方丈等を修補し寛文二壬寅年

五月七日寺領と寄りじつひ御山内の莊嚴他小矣し魏

禪刹あり 名古をのこり北にひくはて境内に入其入口の左り山と聖

天山と云ふ其山下の北に下馬杭あり道のなりに雲龍岩あり谷

川の枝橋と架り常には覆りて平人りて其例小橋ありと云ふ其橋より

東北と云ふ登りて二十間ありて度地あり北の方其池の中央に石橋と架り其石

橋より北にをり蒼松老杉左右に並列し右の方の高き所に清も天神社八幡社

あり其東のしと星山と云ふ道あり石壇と天神社ありし所と登りて山門に

入り其池の石橋より山門まで

坂乃九十五間ありし

佛殿 本寺地蔵井小野曾作又照檀に地蔵の小像一

千体を安置堂のしに水汲りて弁妙天社

方丈書院 仏殿の東

山門 仏殿の南

鐘樓 山門の内東

國祖君御廟 方丈

の山上にたせり二品前並相尾陽侯源政公墓あり石面余を奉り陳元豐書院

四方柵結まり西面のしに格皮門あり獅子門ありは道左の方に書水ありは門

を入りてや登り行ハ浄唐門にあり是より内の結構ありしははらりし御廟

の例に殉死の人々の墓あり寺尾土佐守直政鈴木主殿助重之志水八郎左衛門正昭土屋善之丞元

高鈴木太兵衛重春の五人又寺尾の家来新武家致左衛門治本重之の家来馬場太郎左衛門

井上弥五兵衛志水の家来岡田市郎左衛門の四人都合九基の石碑あり

開山塔 仏殿の西北にあり行基作の千手観音と

寺室 向山覺源禪師の肖像一軀同

同法衣二領同定光寺号一幅扁額一面中興本性禪師肖像一軀同画像自贊一幅同禪師

号一幅二世要門和尚画像一幅大覺禪師画像自贊一幅覺照禪師画像一幅其餘多し

略す 塔頭 蔭涼院金溪軒續芳軒

夫尚山に格りて高きにわたりし

蔚然と松柏林壑の美とあり四時小きて其色と改変せ

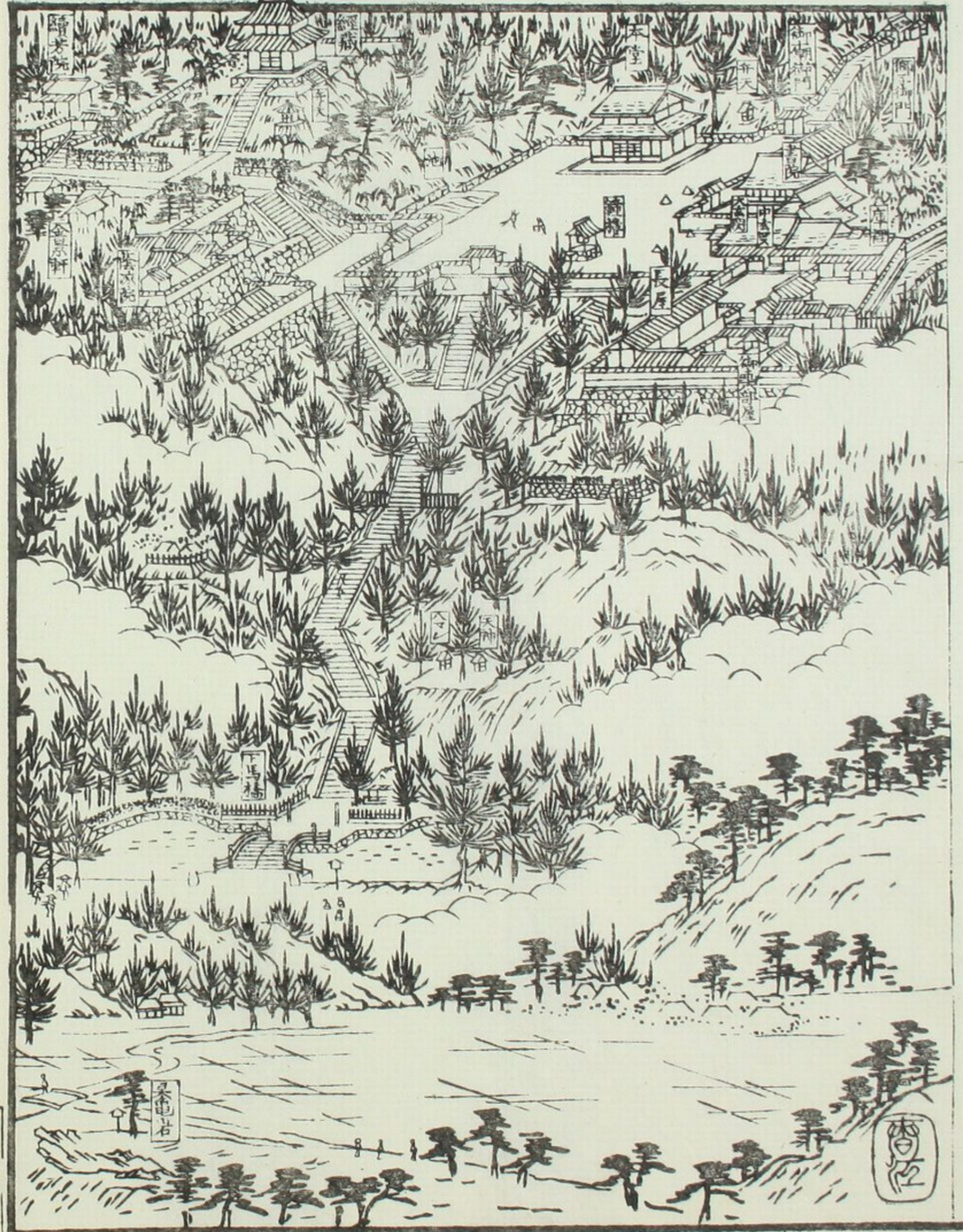
し君子の凋に後々の節操と成り其林の氣雨露を衰て朝暮

山間と出や次霧不断の香と焼に似り李條の後林と常

小いづを漏りて葦苔地も敷て山嵐塵とてんはれ海に無

垢の浄ちや壁へん 國祖君の尊矣永久後に誇りし御園

定光寺





の茶と千五百の後の萬歳は保漢一より無上の榮と八千度此  
 秋小廟食一よりん山は高きにならざれども仙らまは名ありと劉  
 禹錫がりつても今なふおりの合はれ侍

奉悼尾陽亞相  
 何日我如何不淑  
 林道春  
 二品亞相  
 皆武  
 尾陽君侯不豫日  
 久遂即世于武江  
 鄆國皆武  
 無不悲嘆馬既而  
 奉送靈柩于尾州  
 僕饗飽於武  
 江不能奔哭聊綴  
 詩一律呈其家臣  
 以洩餘哀  
 亞不美譽冠博桑  
 家懷恩永不忘講  
 武孫吳持節  
 度致君克弁見羹  
 相共落江城五月  
 應非涼寄賜衣荷  
 葉芳波與梅霖冬  
 日謁拜水野應山  
 定先寺亞相  
 寄跡東源敬公寢  
 陵一感公升斗活  
 窮鱗幾年閱贄  
 神劍贍無  
 豐自城白頭官拜  
 有因醜困臨車  
 麟伯樂龍理神  
 劍贍無  
 往歲身為縣宰公  
 廟知淡銘德千秋  
 永不磷野世猷  
 映松檜呻嶽旭氣  
 鮮仰德山峯皆列  
 嶽比思潭水似  
 涓泉少時伏謁多  
 私感無限清風自  
 奏故思潭水似  
 兒岩  
 上半田川村中品  
 村の後半田川筋の  
 側あり一巨岩に  
 して小兒のまが  
 りとをいふあり  
 けり筋大蛇あり  
 けり岩のまにて  
 見らるる年滑一  
 人と云ふ

此谷より終系の地にて深山  
 幽谷なる唐画の風致あり

蛇が淵

岸小老杉葉葉として之に葉をふる一勝地なり

品野村

上中下の三村あり共伊奈街道に連なり山村ありけり村の地勢平地あり  
 因細いれ山の後にありて上より下階級をうり因一階級のまがり水  
 をふるが彼更科郡の田毎の月にふるけりあかのふにふるのまがりを  
 つら名を更科堆科蓼科倉科仁科なりつる階級ある地より起りて國の名と科を  
 と喚びまめと因

例の里の名あり  
 品野燒 下品に竈あり本業の焼ありて水戸赤津のや竈敷  
 五たけありて大沖土瓶とてめ移すの品と焼わたり

寂場山菩提寺

上品中村あり天台宗吉根村童泉寺未天平年中行基井開創  
 千手観音の像を作りて安坐せしむる傳あり

瑞應山祥雲寺

同村あり曹洞宗白坂雲興寺未天文年中高所の城を極井内  
 膳信定の建せらるる古傳あり信定は徳川左京亮信忠君の  
 弟とて三河國橋井郷に住居ありて極井と家号とて稱せらるる頃  
 常國山田郡の領ありて領ありて極井と家号とて稱せらるる頃  
 刑部長江氏部を

品野古城

同村辰己の方  
 若者隨筆に享祿二年清康君出兵尾州大戰

勝之取品野城賜松平

内膳家重とて山澄風殘翁撰の桶狹  
 間合戦記小先是尾州科野の城を今川より極井の松平監物家

間合戦記小先是尾州科野の城を今川より極井の松平監物家



岩屋堂

其の

石の

大りや

云々

遠く

中品野村半田川の支流に傍る一巨岩あり  
俗小岩井堂といふ其岩のまわりの林より川を以  
の傍に方一側よりくまなくそまわるといふに

岩の端に又一石ありて其大岩と受  
く其ありの自りくまわるといふに  
杖くお入す中か茶所いれと安

そまわるといふの稱あり

山水奇観に見るは越中へ

伏木窟の俗小判官の両舎

として其形状は岩屋堂

彷彿とすは北陸の海濱

東海の小岳に因型の奇

岩ありて其まに其中の

一手子あり



不死又何生  
 不生不復死  
 生死兩相忘  
 奇哉箇童子  
 東康

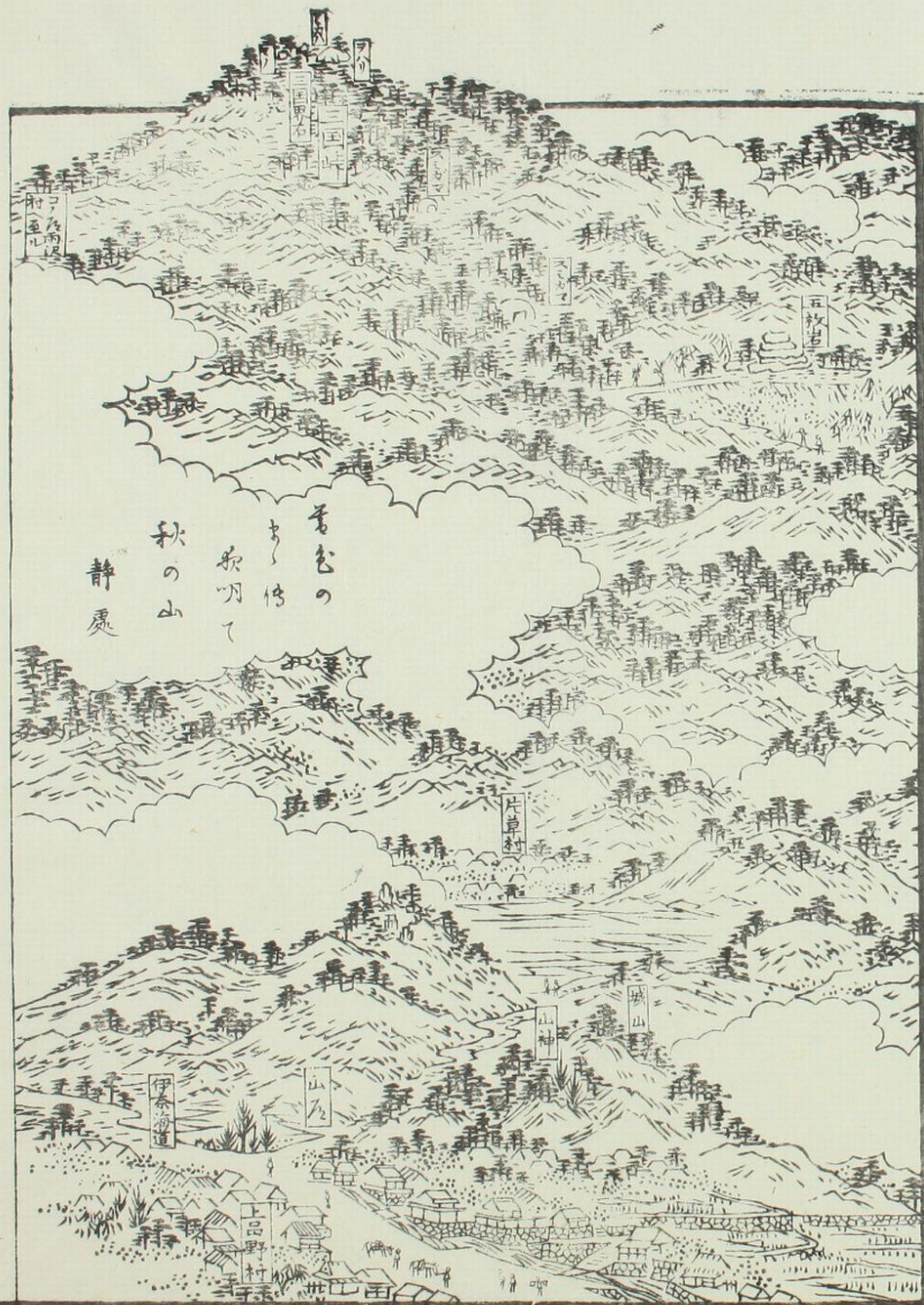
齊



見  
 岩

おまへ  
 ねえ  
 年とけ  
 思の  
 是れ  
 おいれ  
 元久





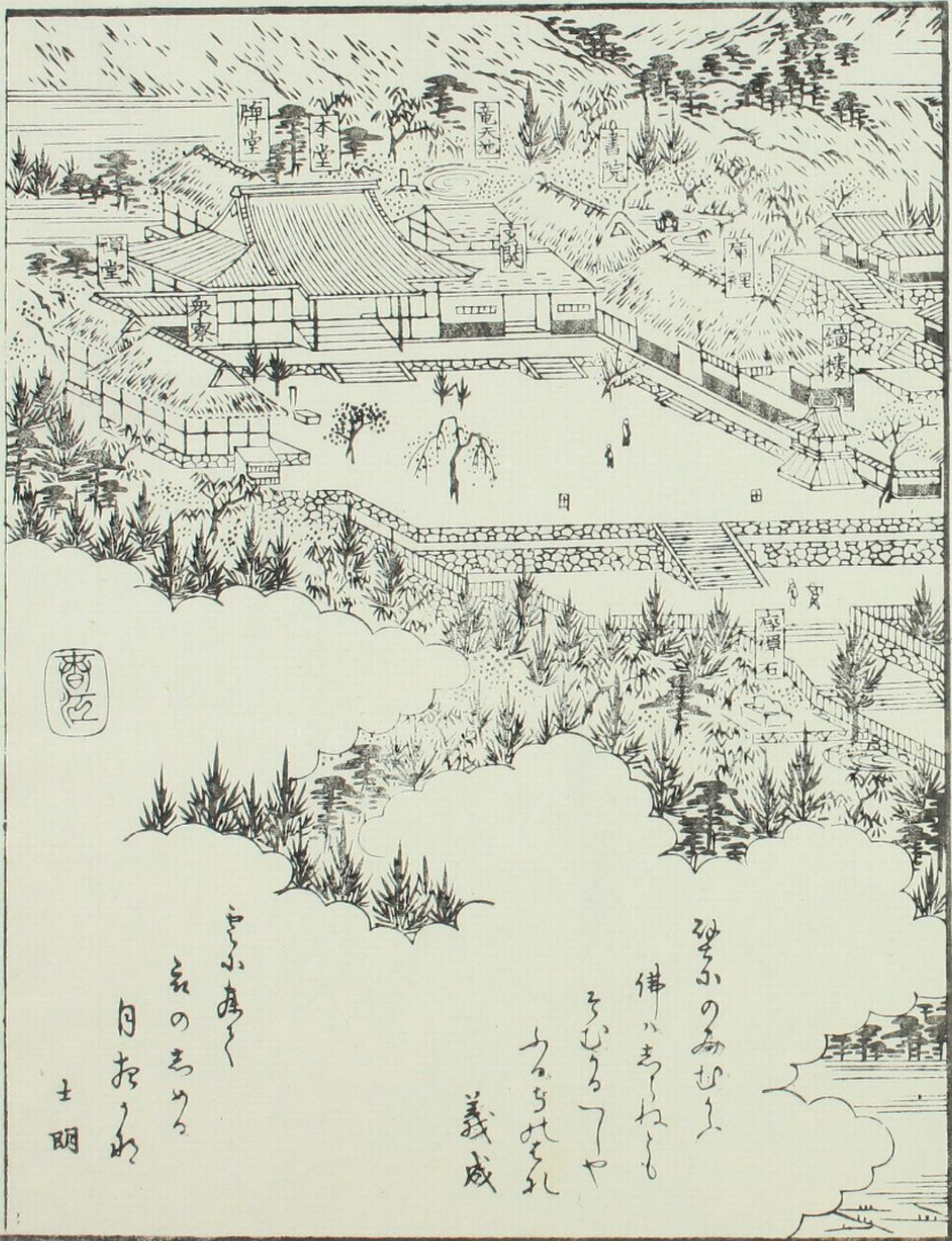
香の  
 もの  
 秋の  
 静處



三國峠  
 雲見ヶ峯  
 庚鞍石  
 谷法寺  
 柴州人乃  
 以名れハ  
 萬葉の  
 歌に  
 石ハ有リ  
 綱根







望ふのふむ  
 佛ハあはれも  
 そひるアヤ  
 かなたれを  
 義成

月おろけ  
 士明

雲興寺



門前翠竹屋頭山  
 占新禅林第一閑  
 惟有白雲侵榻下  
 曉天出岫暮天還

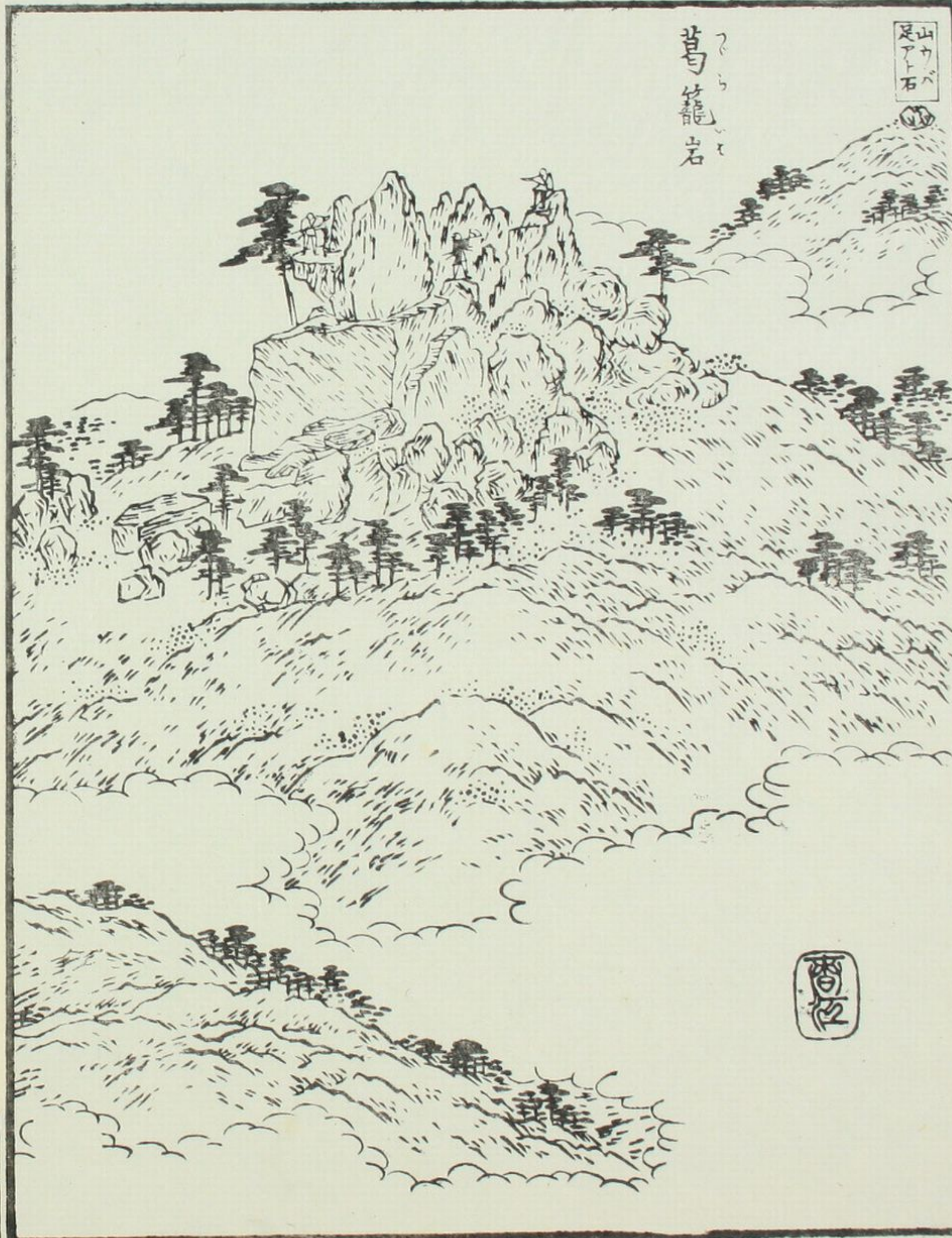
僧畫屏



屹立勢巖々  
 人呼為九折  
 取形將取紋  
 吾未得其說

梅軒

又也  
 凍風  
 我竟



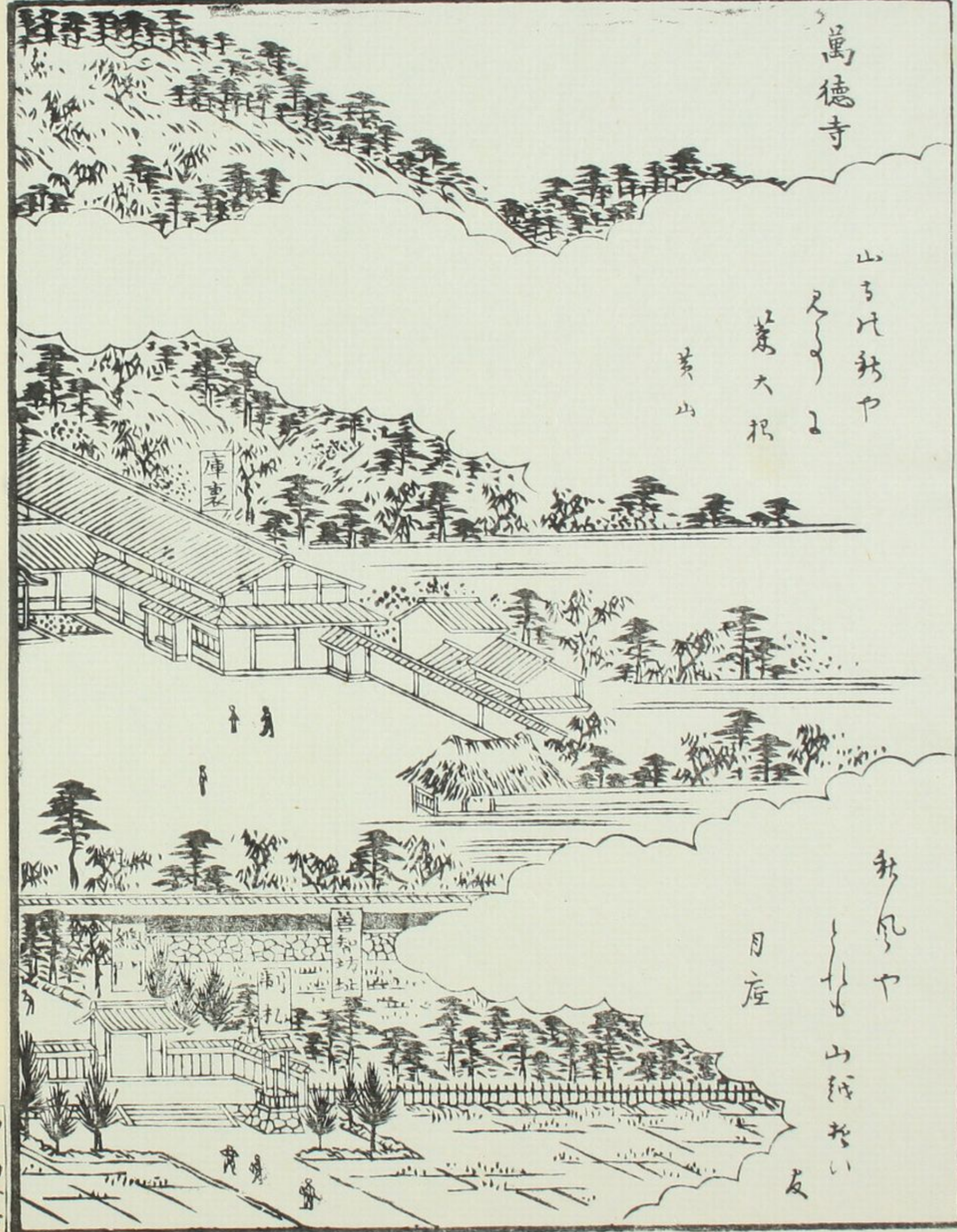
葛籠岩

山石



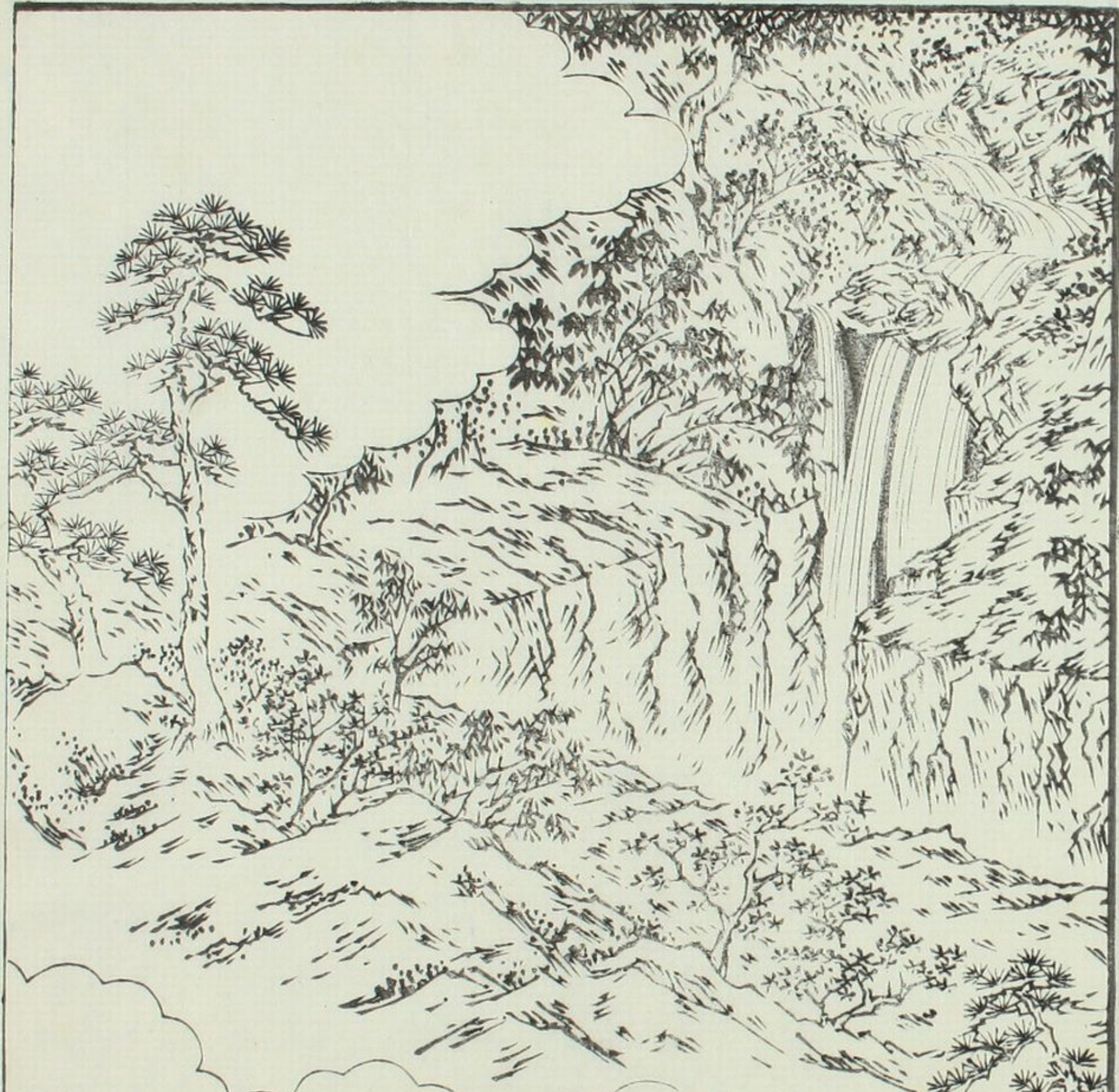










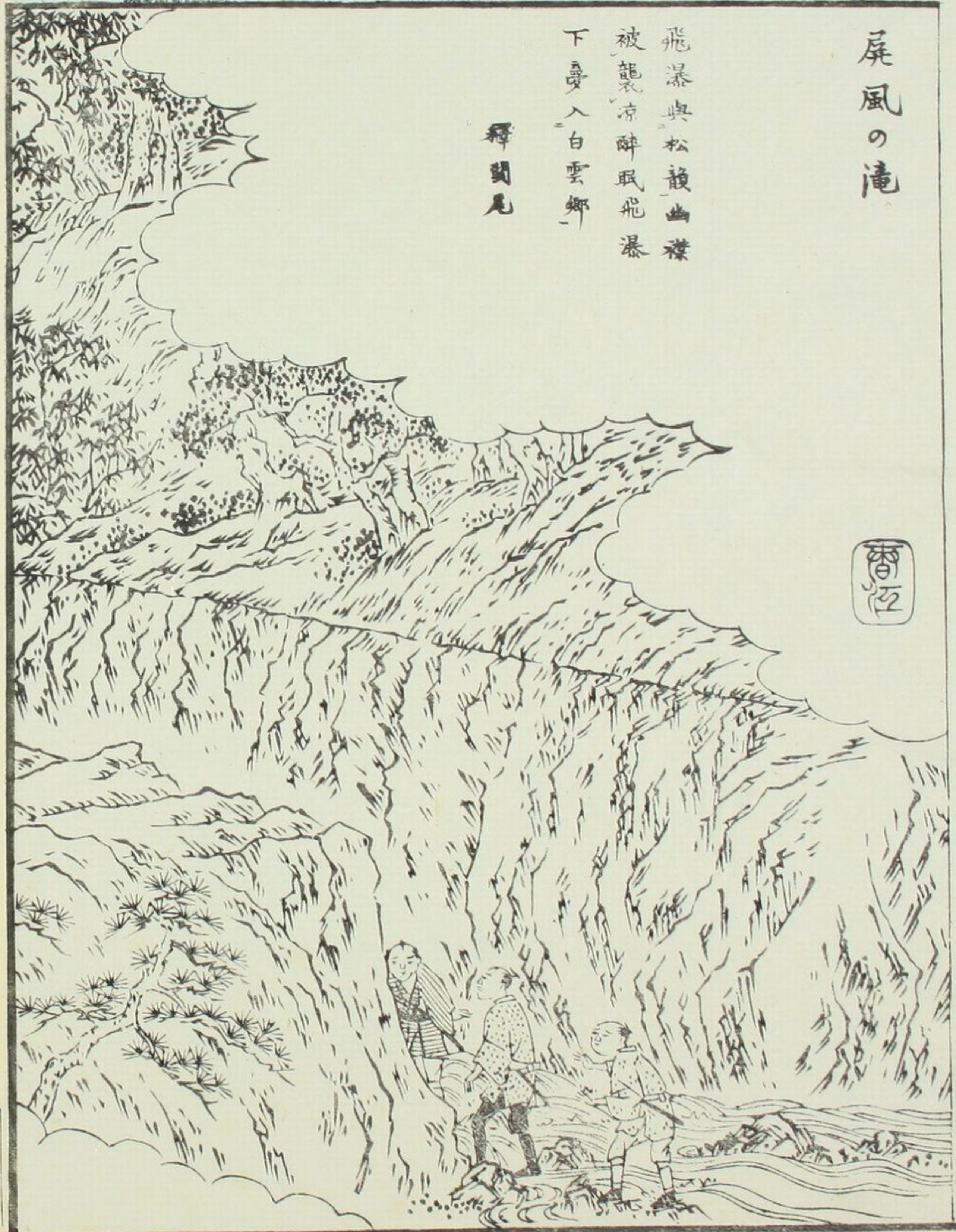


以傳ハ山ハ川の支流小  
 ありて垂閑より水の方  
 東へ入る小流をまろのけり  
 けりハあがれ絶壁ありて  
 恰屏風とまよるががめ  
 なるに青岩性石の万を  
 奔流ハハ別傳の下流  
 や上りの右折  
 所に滝ありて飛流する  
 きの又目ぎよ

屏風の滝

飛瀑與松韻幽襟  
 被襲涼醉臥飛瀑  
 下身入白雲郷

釋蘭尾





藤四郎古室址

藤四郎の室址といひ傳ふる

所瀬赤津の山中に敷く

あつて行きも中に被る

磁器埋れむ

忍びさそふ

志しむ

夫も

図て其

中を執

て一園と

画き関

略と

補ふ

名産瀬戸磁器

瀬戸村に陶工多くありて血茶碗茶壺をとりつゝの器物と  
作し陶器をとりつゝ瀬戸物といふなり今瀬戸村の  
寺とて呼ばる瀬戸物といふなり今瀬戸村の  
延喜式踐祚大嘗祭

あせはつとも朽ぬもの名れつゝ閑いふふれつゝあまの流 道直

龍 別 歸 俊 既 石 人 師 分 見 所 子 可 有 障 黄 松 三  
德 有 責 三 蓋 故 繼 大 全 聞 三 天 忽 積 益 里  
不 下 本 生 兒 歎 遂 其 稿 字 形 皆 月 其 狗 然 草 石 青  
測 尾 捐 作 壽 酒 得 遺 翁 傍 至 怨 十 是 吼 大 而 益 白  
與 頭 故 因 徒 各 題 之 請 日 小 龍 山 七 是 吼 大 而 益 白  
世 備 不 生 鳥 題 之 請 日 小 龍 山 七 是 吼 大 而 益 白  
推 題 詳 曾 遊 西 詩 之 思 田 愛 惟 溪 仰 未 慙 奇 先 景 隨 步 而 觀 之 乎 然 見 勝 是 丙  
昔 頭 騰 空 今 潛 護 僧 秦 關 尾 浪 巖 字  
尾頭備、書洞の表上に詩と彫りありと云々



母ハ平道風ガ女ナリ 山城国深草の人 成人の後久我大納言通親卿ハ仕へ五位の諸太夫トシテ名と景正トシテ春慶 或ハ後慶トシテ別号 たり深草の里ハ母の在りたる所ハ住ルキ器と製一試ふハ其業に委シテ其況茶を困ル法を知ル後只此器と湯等と造るのハ高麗南京其外の焼物を集めりて之ヲ断る器物を製スルハ朝暮心を碎クトシテ其傳を得る事トシテ患ハレテ越の永平寺開山道元禅師ハ通親ハ二男トシテ後堀河帝の貞應二年入宋の志ありトシテ終ハ人ハ随テ入宋トシ 一説に後四郎トシテ以前清云を經田一由志附ハル其居を以テ密と造リテ陶器と製造セリトシテ頃道元禅師其四密院に在リテ未だ其居ハ後四郎トシテ入宋セリトシテ けハ宋朝ハ寧宗帝嘉定十六年より夫より彼地ハ居る事ハ六年の冬南京北京其外國トシテ往リ陶器製作の秘奥トシテ又禅師ハ随テ安貞二年の春帰朝ス此時廿六歳なりトシテ肥後國川尻

蓋聞 順德帝之世有加藤四郎春慶者尾州智多郡人也或言春日井郡瀬戸村人又言泉州界氏 皇都之郊深州里產其詳不可得而識矣好造陶器常恨西土陶法未盡傳為自應中會釋道元之來春慶以為頗且遠隨行遊宋五年究陶人之事歸奉為良工遷移數十處過尾濃及京畿諸州而莫所適意就居瀬戸村親祖母懷之地廠土粘弗散聖弗沙且采薪之饒異于他邦謂無若瀬戸之樂益弘其道乃難發入道有終焉之志其村社中寺造獅子簾鎮一隻屋存距今五百有餘歲尚有陶埴出春慶手則直數百金大率為王公貴人祕庫之物夫善歌者使人續其聲善作者使人紹其功春慶之緒業其庶幾乎君子之道與尾濃之地以陶衣食以加藤姓者皆是餘裔而斷續不一也獨在瀬戸見為陶長 大藩給津加藤春曉者世不廢業允諸陶氏所造出大小巨萬標槃之類乃日用必需之物阜通四方東過東奧西踰京畿湖南暨至于極稱陶器曰瀬戸物遠矣哉春慶之績贊曰坏治一陶群生得計春慶之業充為可繼後人衣食之數百家世引之無替以給旦夕之用者弗億之麗

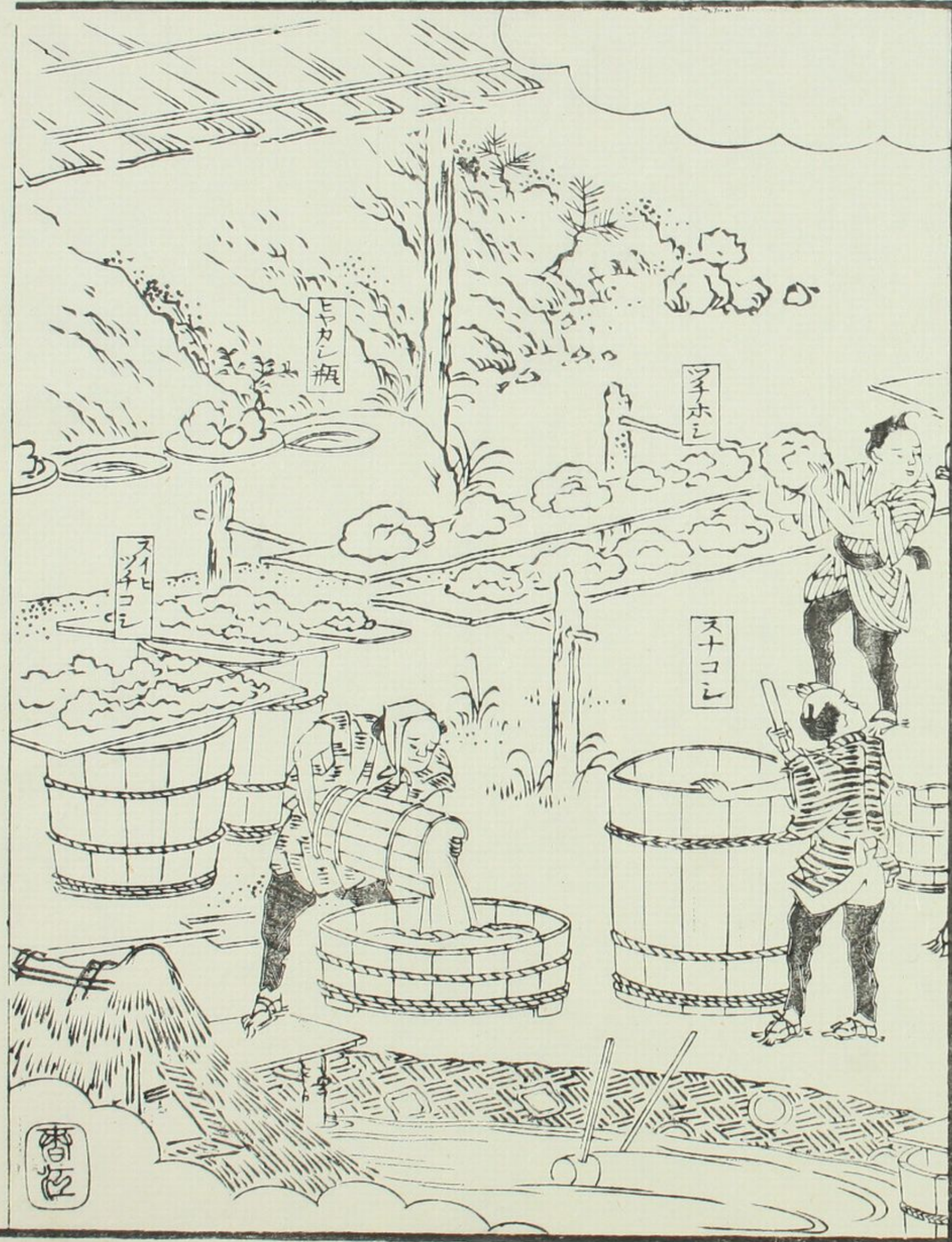
安永八年己亥九月十五日

人見恭

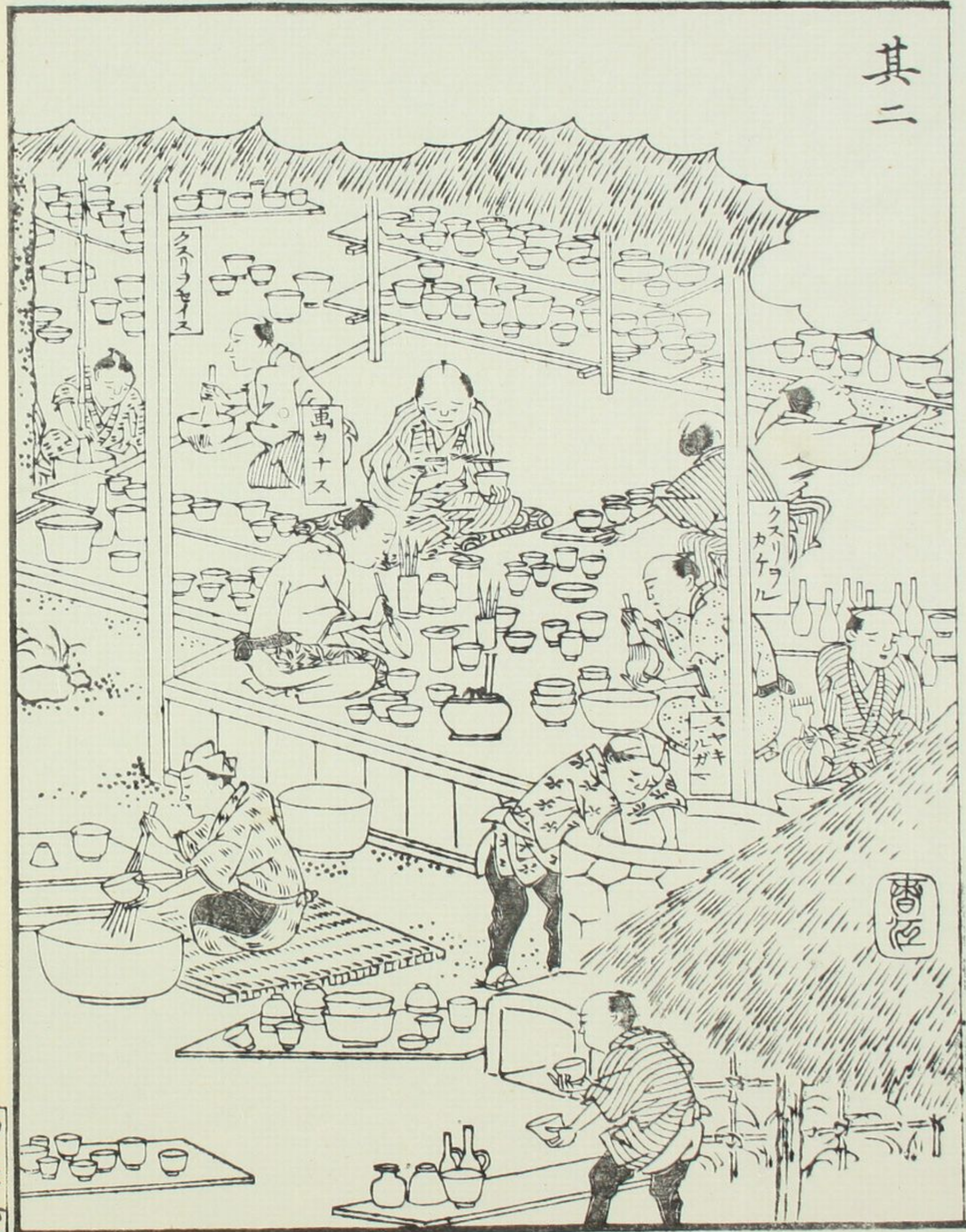
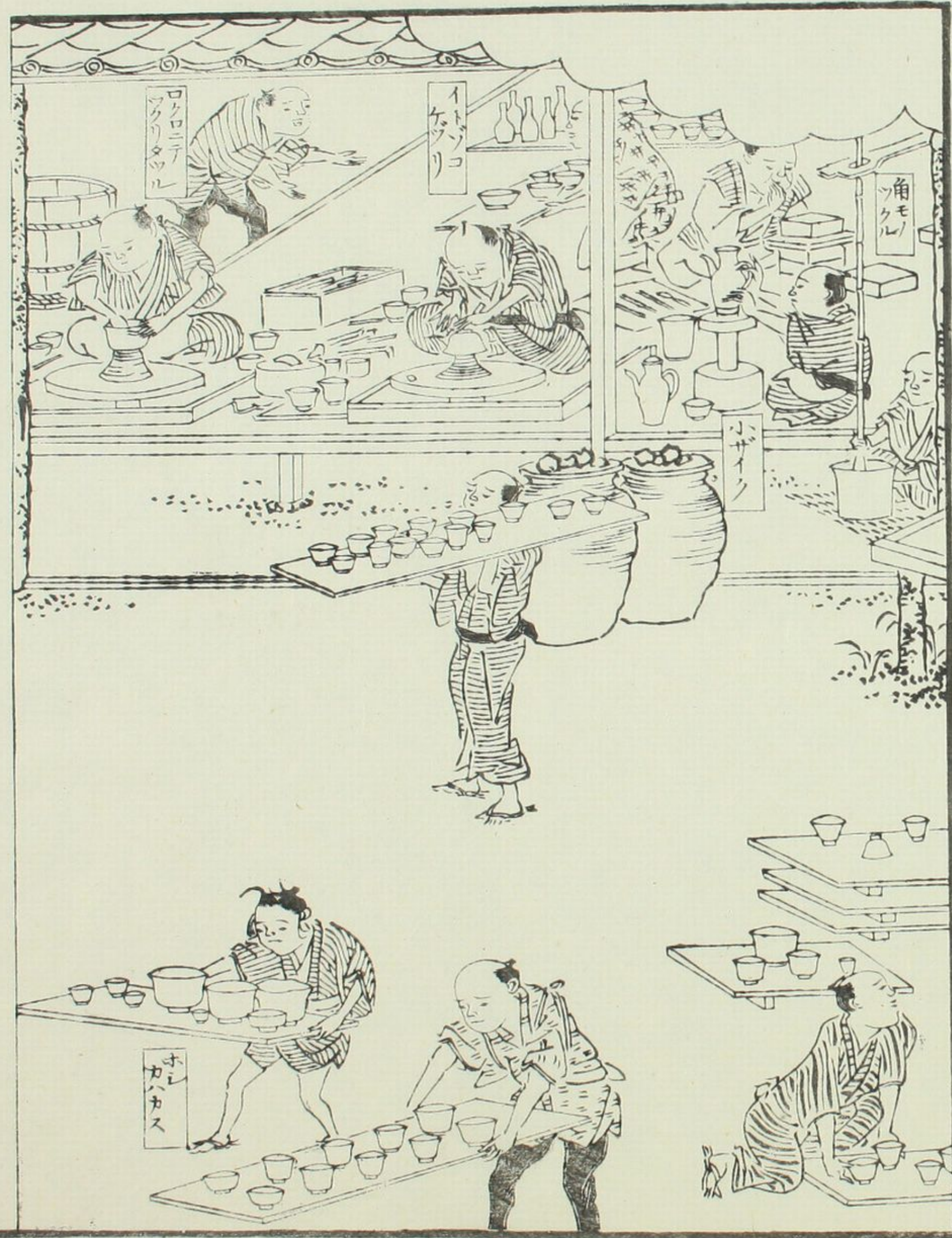


陶工藤景登所藏 古人東甫翁所筆 藤師肖像之遺圖 春江縮摹









其二





其三

焚休む

かまのうや

まれば

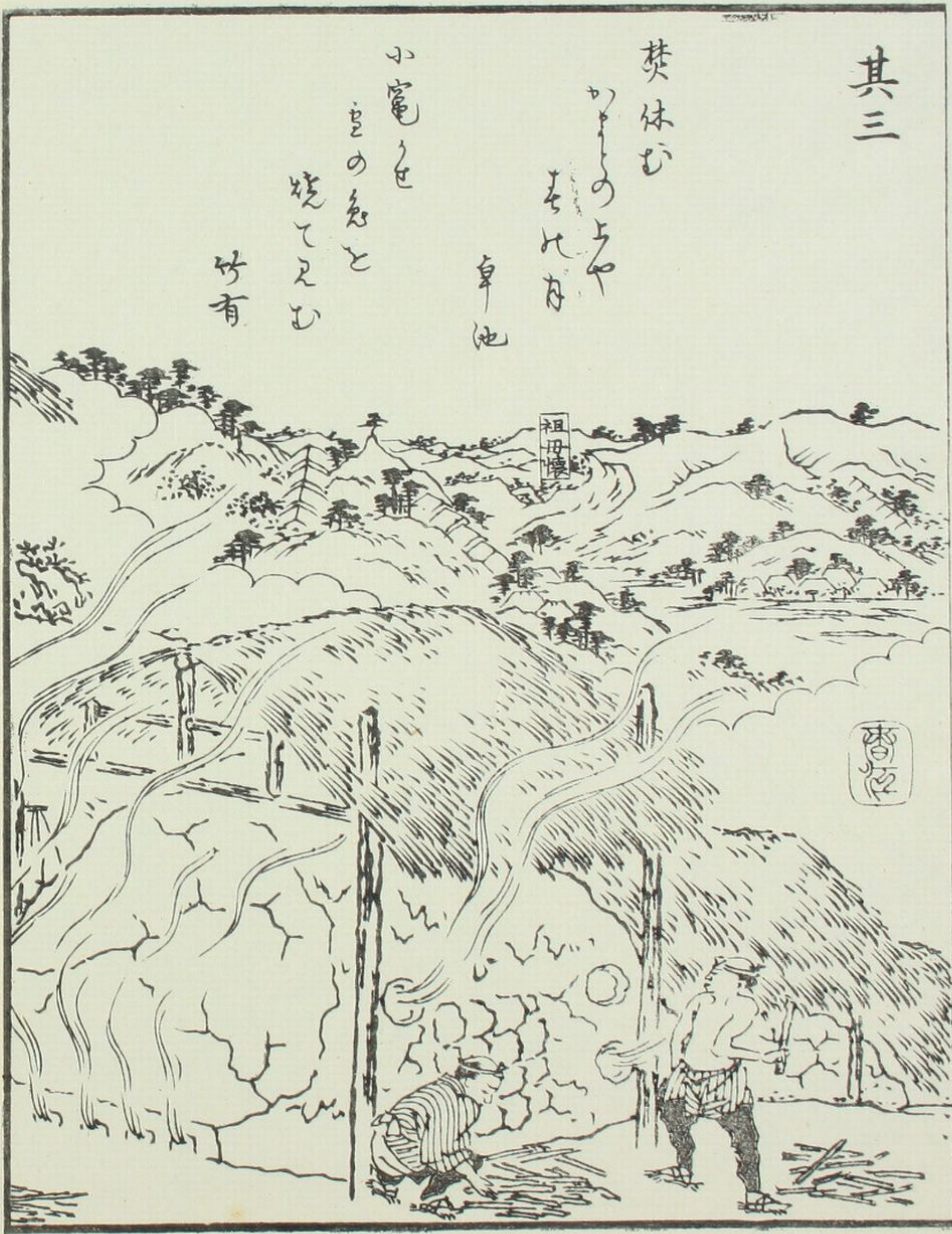
卓他

小竈を

まのゑと

焼てえむ

竹有



香

六作十作の事

永祿五年信長公國中巡覽の節 瀬戸少く名家台作しとて是定りた  
 名ももたぬ六作のうらなをのり孫今のかき流しとてさなる氏古流なるは流し  
 名ももたぬ六作のうらなをのり孫今のかき流しとてさなる氏古流なるは流し

六作

十作

祖母懐土

田村辰巳の方向にあり陶工の用つる焼物の土ありて今官禁となり  
 田村辰巳の方向にあり陶工の用つる焼物の土ありて今官禁となり

古窑跡

田村の山林馬ヶ城をとりし所たり其内藤四郎密とりし竹あり  
 田村の山林馬ヶ城をとりし所たり其内藤四郎密とりし竹あり

陶器土取場

田村の土取場にあり奥印所洞 高根蜂女日々敷反密五位塚 葛ヶ根梅の  
 田村の土取場にあり奥印所洞 高根蜂女日々敷反密五位塚 葛ヶ根梅の

信長公瀬戸の陶工御朱印と賜ふ図

あつ時信長公地理 瀬戸のありありの  
 あつ時信長公地理 瀬戸のありありの

一 瀬戸焼物釜釜の  
 一 瀬戸焼物釜釜の

とてて陶工の御朱印  
 とてて陶工の御朱印



高所ハ東南北ハ山嶽連リ中央に瀬戸川流シ村落ハ多ク山傍ハあり  
北新開南新開宮殿古御山 一村農高少ク陶工の多ク一々家居も地村

小ぢり石垣多ク磁器 イエゴロ或ハカマイタナク 少ク組立瓦も多ク

赤津焼と用ハ山の半腹小所セキトモ菜タラシ小窯 伊業窯ナリ 丸窯 若四郎窯

府下まで六里ハ程朝より夕小ぢり行も少ク城東一の繁華ナリ

て農業の多ク村立ハ又自其の多ク雅趣ハ出地ハ

祕風流好事の地人ハ必ズ之の一勝聚あり

深川神社 内村ハあり 延喜神名式小山田郡深川神社本國帳小從三

位深川天神 ハ王子社ト稱ス 官社あり ○本社 多分五男三女神ナリトハ天忌穗耳尊天穗

日命田心姫命湍津姫命 末社 神明社白山社ハ幡社奥宮社并財天社陶彦社ハ陶祖

市杵島姫命ハ 瑞籬拜殿鳥居等あり又石燈籠ハ三都ナリも寄附あり ○例祭

本社九月十五日馬の頭棒の多 神宝 狛犬一隻 若四郎妻又ハ造りて奉納

三月十九日獅子八月十九日馬の頭 神宝 狛犬一隻 若四郎妻又ハ造りて奉納

二足あり 又鐘の銘小娑婆婆世界南瞻部

州大日本國尾張山田郡内瀬戸村伊勢天照大神白山妙理權現八王子

鐘也願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道永享十年戊午

十一月吉日大檀那瑞菴集博願主敬白

藤四郎南社小菴

菴一陶器の創業と祈

と菴の告あり則神初小行

皇國の陶器の魁

と焼出

大正山寶泉寺

修驗泰澄院

三月

七月

十月

十二月

正月

二月

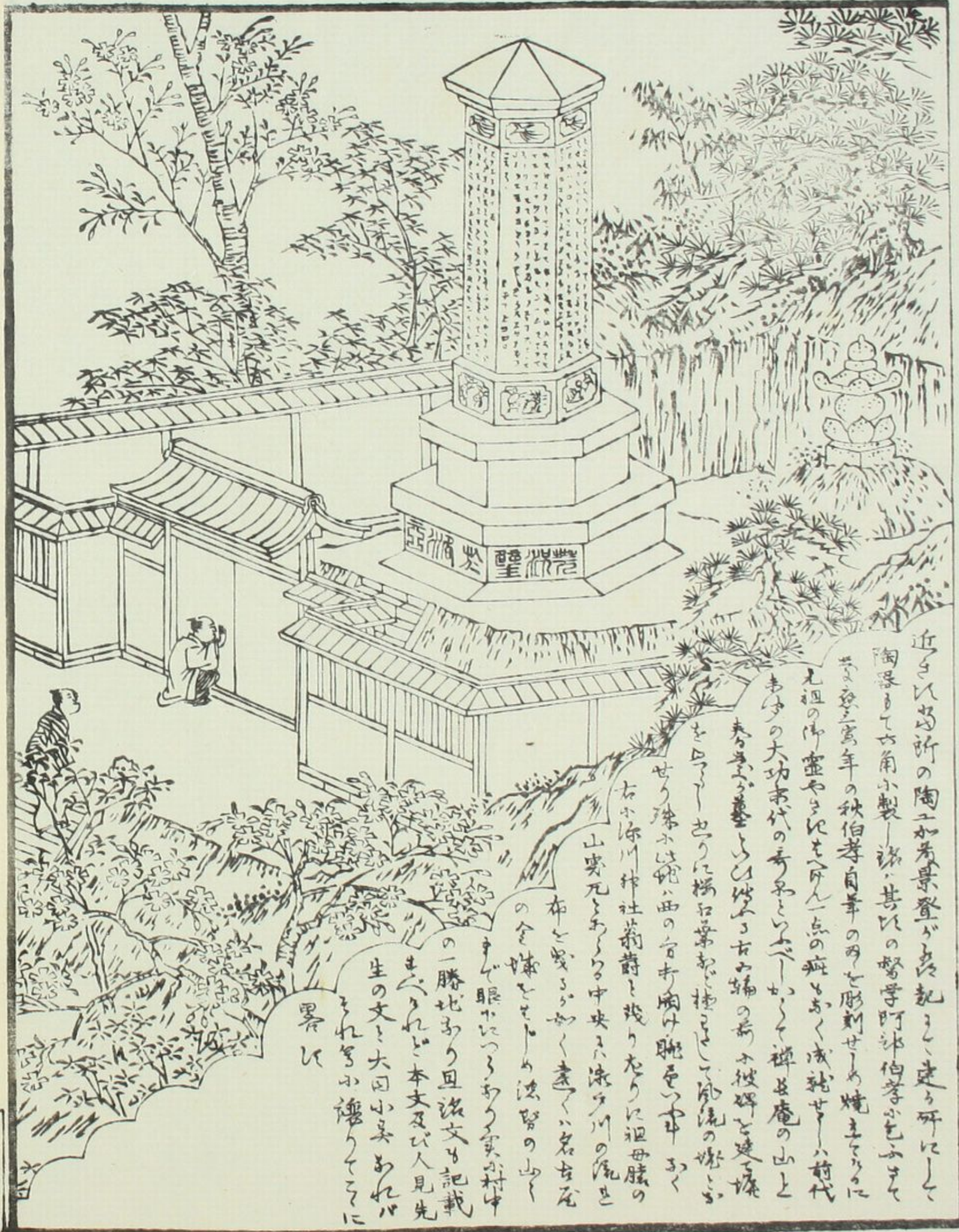
三月

四月

五月

六月

陶祖加藤春慶碑銘



近き以爲所の陶祖加藤春慶が其の記し、定る所にして、  
 陶器として古く製し、其の以の習字阿部伯孝も亦ふに  
 其の意を以て年秋伯孝自筆のものを彫刻せしめ、焼く事  
 七祖の御霊を以てし、所ん一石の疵もあらず、成す事、前代  
 未だの大功未だの奇事といふべし、かく、碑は庵の山と  
 夫を以て、墓といひ、此の古く、端の、前、彼、碑、と、建、て、塚  
 といふ、こゝ、に、お、り、に、梅、石、葉、を、植、え、て、し、て、流、流、の、塚、と  
 せり、殊、に、は、地、の、西、の、言、事、阿、部、伯、孝、の、中、心、に、お、り、  
 右、の、河、川、神、社、前、の、地、に、建、て、り、た、り、に、祖、母、膝、の  
 山、安、元、と、い、ふ、中、央、に、は、流、河、川、の、流、を  
 布、と、い、ふ、か、く、遠、く、名、古、屋  
 の、全、地、を、こゝ、に、流、留、の、山、  
 の、一、勝、地、あり、且、改、文、も、記、載  
 あり、れ、ど、本、文、及、び、人、見、先  
 生、の、文、と、大、同、小、異、あり、れ、ど、  
 それ、を、以、て、考、へ、る、に  
 異、に



吳の... 尚友堂... 遠州秋葉山... 月... 奉... 額... ありて世  
人... あり所あり

尾張名所圖會後編卷之四畢

四ノ六十一

明治四十三年八月十日再版印刷  
明治四十三年八月十五日再版發行



編纂者 春江 小田切忠近 故

編纂者 文園 岡田 啓 故

編纂者 梅居 野口道直

發行兼印刷者 名古屋市西區玉屋町三丁目一番地 片野東四郎

名古屋市西區玉屋町三丁目

永東書籍店

振替口座東京一〇二七番

名古屋市南區熱田市場町

尚友堂書店

振替口座大阪一〇四九二番

發行所

發行所

